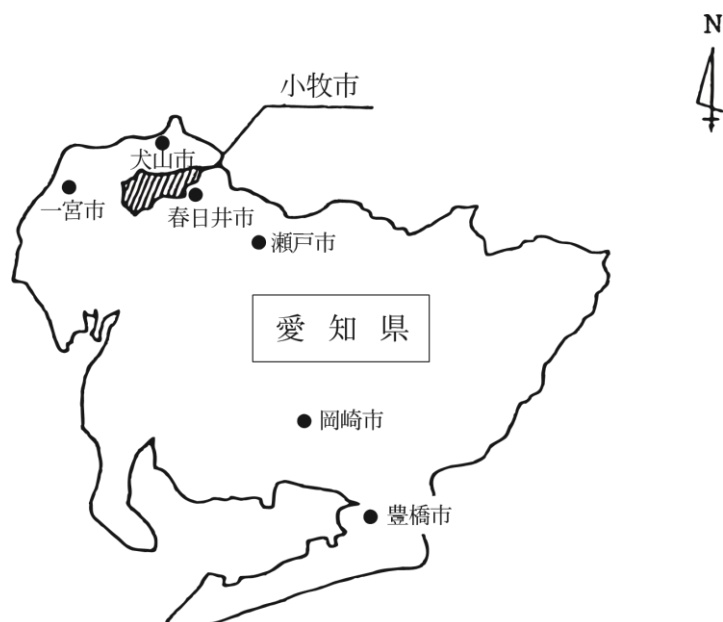


第1 小牧市の概要

第1 小牧市の概要

- (1) 市制施行 昭和30年1月1日
- (2) 市役所所在地 小牧市堀の内三丁目1番地
東経 136度54分
北緯 35度17分
- (3) 面積 62.81平方キロメートル
東西 14.82キロメートル
南北 9.22キロメートル



昭和30年1月、小牧町・味岡村・篠岡村の1町2村の合併により県下21番目の市として市制を施行し、その後昭和38年9月には北里村を編入して現在の市域となる小牧市は、愛知県の北西部、名古屋市の北約15kmに位置している。

市制施行後、東名・名神高速道路及び中央自動車道の結節点という陸上交通の要衝と空の玄関口である県営名古屋空港を併せ持つ地の利に恵まれ、田園都市から内陸工業都市・尾張北部の中核都市へと飛躍的な発展を続けている。

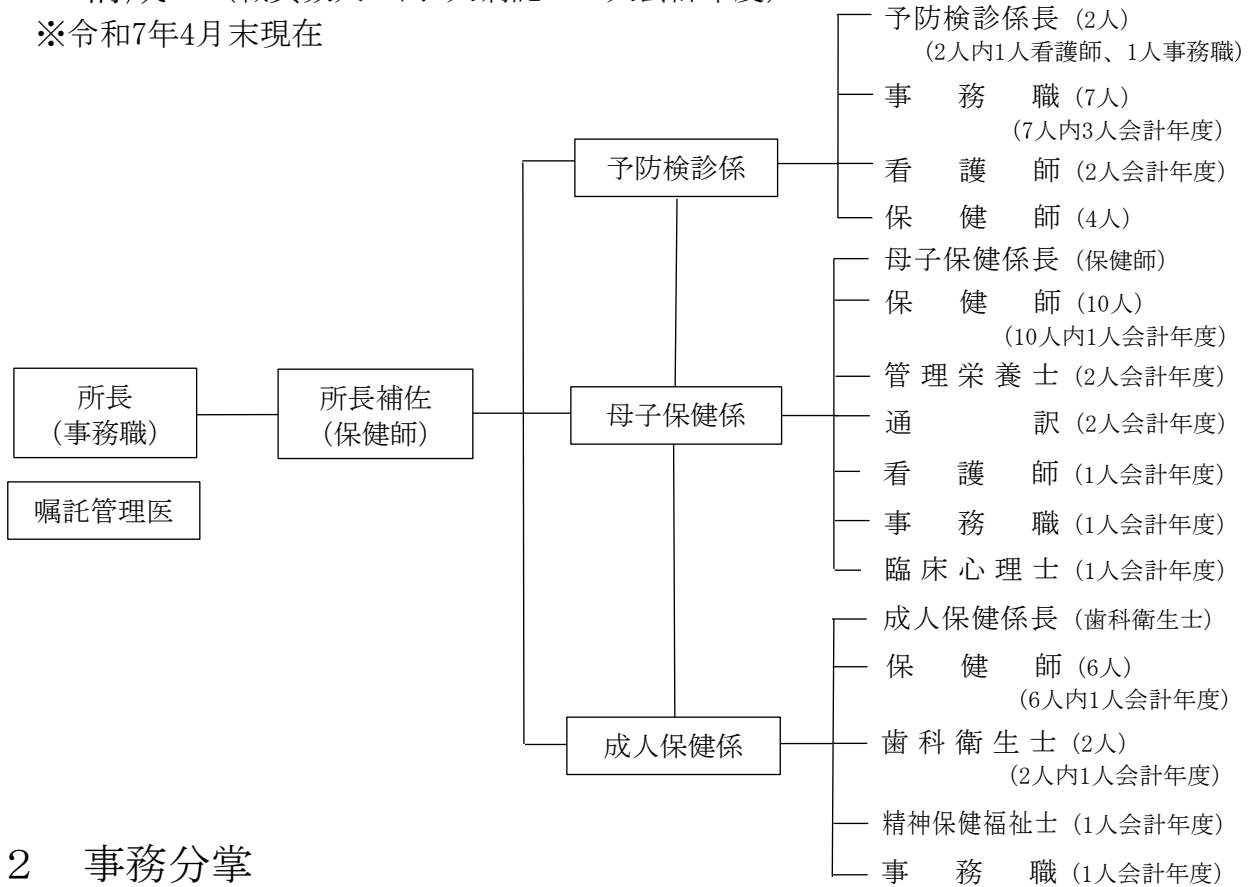
現在、小牧市は、「こども夢・チャレンジNo.1都市」「健康・支え合い循環都市」「魅力・活力創造都市」をまちづくりの機軸として掲げ、更に“誰一人取り残さない”持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指すSDGsや、ダイバーシティの考えも取り入れて、まちづくりを進めている。

第2 保健センターの機構及び事務分掌

第2 保健センターの機構及び事務分掌

1 構成 (職員数人47内1人嘱託・17人会計年度)

※令和7年4月末現在



2 事務分掌

	予防検診係	母子保健係	成人保健係
成人保健	1 健康手帳交付 2 健康診査 3 がん検診 4 肝炎ウイルス検診 5 骨粗しょう症検診 6 結核検診 7 予防接種		1 健康教育 2 健康相談 3 訪問指導 4 ヤング健診 5 歯周病予防個別健診 6 いきいき世代個別歯科健診 7 口腔がん検診
母子保健	1 予防接種 2 中学生ピロリ菌検査事業	1 乳幼児健康診査 2 健康教育 3 保育・教育現場との連携事業 ① 歯みがき教室 (保育園・幼稚園・こども園) ② 園児対象う蝕対策普及啓発活動 ③ 8020歯っぴースマイル! 歯みがき教室 (小学校) ④ フッ化物洗口 (保育園・市立幼稚園・小学校) ⑤ 生と性に関するカリキュラム 4 相談事業 ① 育児相談 ② 電話相談 ③ 臨床心理士による相談 ④ 運動発達相談 5 訪問事業 6 妊婦個別歯科健診	
地域保健 組織育成			1 保健連絡員養成 2 保健連絡員教育・学習 3 保健連絡員・OB活動 4 食生活改善推進員育成
その他	1 感染症予防 2 休日急病診療所 3 骨髄提供者等助成事業 4 がん患者医療用補整具購入費助成事業 5 若年がん患者在宅療養助成事業	1 不妊不育症治療等助成事業	1 介護保険地域支援事業 (介護予防事業) 2 自殺対策事業 3 小牧市健康づくり推進プラン (各種専門部会を含む)

第 3 保健事業の変遷

第 3 保健事業の変遷

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
昭和40年	・農夫症対策開始	・新生児全戸訪問 (国保対策)		・保健婦3人	63,365
41年	・そさいグループ健診 開始 ・老人クラブ保健指導 開始 ・高血圧料理講習会 開始 ・健康相談室開催				64,091
42年			・腸・パラチフス廃止 ・百日咳・ジフテリアに 破傷風が入り2種混 合から3種混合に変 わる		67,052
43年	・胃がん検診開始		・種痘切皮法から多圧 法に変わる ・BCG切皮法から管 針法に変わる	・看護婦1人	71,900
44年	・そさいグループ健診 終了 ・子宮がん検診開始		・ハイジェット使用開始 (61年まで)		75,962
45年	・農夫症対策終了	・赤ちゃん教室開始 ・乳児健診開始(1回)	・問診票使用開始 ・予防接種事故救済 制度始まる	・看護婦2人体制 ・保健婦4人体制	79,842
46年	・糖尿病料理講習会 開始	・乳児健診(2回) ・2歳児講習会開始	・日本脳炎1歳から3 歳、日本脳炎小2、 中1、55～64歳に 改正	・消毒室開設	85,006
47年					88,537
48年	・成人病健康診査開 始				92,697
49年		・1歳児健診開始	・ツベ・BCG 0～4 歳、小1、中1、中2に 改正 小2、中2は前年BC Gのみ		95,884
50年	・保健衛生推進協議 会設置	・乳児健診(4回)	・百日咳中止 ・種痘廃止		98,528
51年	・住民健診に血圧、検 尿を導入	・2歳児講習会終了	・2種混合3期入学前 廃止		99,566
52年		・1歳児健診終了 ・1歳6か月児健診 10回	・風しん開始(中学3 年女子)		100,236
53年	・小牧市民健康づくり 推進協議会設置	・1歳6か月児健診 24回	・風しん中学1・2年女 子に改正 ・日本脳炎55歳～ 64歳中止 ・予防接種事故調査 委員会発足	・保健婦国保から市 町村に移管 ・休日急病診療所 開設	100,837
54年	・住民健診ポスター作 成	・1歳6か月児健診 36回 ・事後検診開始 3回	・麻しん個別接種開始	・保健婦3人体制	102,160
55年	・保健健康づくりモデ ル地区活動開始 ・コミュニティースポ ーツ振興会における健 康づくり開始 ・糖尿病予防教室開 始	・1歳6か月児健診に 歯科健診を導入 ・なかよし教室(6回) ・幼児教室開始 (6回)	・百日咳復活(3種混 合) ・風しん中学1年女子 に改正 ・ポリオ投与法スプ ーンからピペットに改正	・救急医療情報シ ステムスタート ・保健婦4人体制	103,985

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
55年	・肥満教室開始 ・高血圧教室開始				
56年	・コンピュータードック開始 ・肥満教室、高血圧教室等シリーズ開始				106,630
57年	・保健衛生推進協議会廃止 ・乳がん自己検診法開始	・妊婦貧血教室開始(2回)	・一般会場一針一筒となる		108,885
58年	・健康手帳交付開始 ・北里支所健康相談中止 ・一般健診開始 ・小牧市健康まつり開始	・妊婦貧血教室(3回)		・保健婦3人体制	110,281
59年	・成人病教室の充実 ・コンピュータードック終了 ・大腸がん検診開始 ・子宮がん施設検診開始 ・保健連絡員養成講座開始	・妊婦貧血教室(4回) ・小冊子の作成 ・なかよし教室(12回)	・予防接種事故調査委員会廃止		112,097
60年	・肺がん検診開始 ・保健連絡員活動開始 ・一般健診ポスター作成開始	・妊婦貧血教室を妊婦栄養教室に改正(5回)			113,670
61年	・一般健診対象者へ個人通知 ・乳がん検診開始	・妊婦栄養教室(6回) 人形劇開始、尿中塩分量測定、みそ汁塩分測定 ・2語文アンケート		・保健婦4人体制	115,211
62年	・肺がんX線開始		・ハイジェットタ使用全面廃止 ・麻しん無料化 ・インフルエンザ任意、保護者同意となる	・保健婦1人増員 保健婦5人 看護婦2人	117,198
63年	・基本健診の開始 ・リハビリ教室開始 ・人間ドックの開始	・1歳6か月児健診に精密検査を導入 ・2語文アンケートを2歳児アンケートに改正	・予防接種電算調査	・保健センター開設 ・栄養士1人配置 ・看護婦1人増員(職員13人)	119,935
平成元年		・妊婦栄養教室を妊婦教室に変更 歯の健診を導入(12回) ・1歳6か月児健診に心理相談を導入	・MMR開始	・看護婦3人体制 ・補佐職配置 ・保健指導係長兼務(職員14人)	122,913
2年	・訪問生活リハビリ開始 ・40歳無料大腸がん検診開始 ・食生活相談紹介状の導入により医師会との食事指導の連携ができる ・「生きがいの会」発足		・予防接種協議会の設置	・保健婦1人増員 ・保健婦6人体制(職員15人)	125,261
3年	・乳がん検診にDMRを導入 基本健診に尿酸、総蛋白を加える		・MMR凍結		129,267

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
4年	・成人歯科健診 ・がん死亡撲滅地区事業開始 モデル地区 ＝岩崎原区、市之久田区 ・歯科衛生士による訪問指導開始				131,024
5年	・成人健康管理システム稼働 基本健診に HDL・中性脂肪・クレアチニン追加 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝三ツ瀧区、野口区 ・成人歯科健診を3回から6回に拡大 ・ボランティア健康劇団「ほたる」発足 ・地域ケアボランティア「ともしび」発足			・補佐職兼務を解く ・歯科衛生士1人配置 ・看護婦1人退職（職員数16人） 保健婦6人 看護婦2人 栄養士1人 歯科衛生士1人	133,723
6年	・人間ドック300人増加（総数 1,800 人） ・人間ドック受診料 5,660 円→6,000 円 ・人間ドック検便を2日法に変更 ・骨粗しょう症検診健康教育 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝小牧原区、北外山県住区 ・ボランティア「つつじ」（1人ぐらし老人食生活の工夫）発足 ・小牧市老人保健福祉計画作成	・乳幼児管理システム稼働 ・母子保健法一部改正	・インフルエンザ取りやめる ・予防接種法一部改正により、予診医師1人1時間あたり100名→20名	・保健婦1人増員 保健婦7人体制（職員数17人）	135,632
7年	・人間ドック300人増加（総数 2,100 人） ・骨粗しょう症予防教室 ・地域リハビリの集い「たんぼの会」開始（南岩崎台） ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝本庄区、藤島団地区 ・保健連絡員活動10周年記念事業 ・健康まつりで骨粗しょう症検診（国保会計）		・風しん個別接種予防接種法一部改正により、名称及び対象年齢の変更 個別接種化に伴い、会場数を変更 10→6会場	・保健婦1人増員 保健婦8人体制（職員数18人）	137,226
8年	・骨粗しょう症検診（新規） 年6回130人×6回＝780人 ・基本健診 HbA1cの項目追加（ヘモグロビンA1c） ・地域リハビリ「ももの	・9年移譲にむけて、保健センターを会場として4か月児健診の実施（実施主体保健所） ・乳幼児管理システム第2次開発 ・母子保健計画の作	・日本脳炎個別接種個別接種化に伴い、会場数を変更 6→5会場	・保健婦2人増員 看護婦1人増員 保健婦10人 看護婦3人 栄養士1人 歯科衛生士1人退職（職員数21人）	138,795

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
8年	- 会」開始(東部) ・がん死亡撲滅モデル地区 = 村中区、大草西・東区 ・いきいきウォーキング推進事業 = 北里中学校区 応時中学校区 ・リフレッシュウォーク 四季の森～四季の道 (389人参加) ・ボランティア「つつじ」 が料理する一人ぐらし 簡単料理を広報こまきに掲載開始	成			
9年	・骨粗しょう症検診 年6回150人×6回 = 900人 ・人間ドック300人増加 (総数 2,400人) ・がん死亡撲滅モデル地区 = 桜井区、大輪区 ・地域リハビリ「わかばの会」開始(藤島団地) ・いきいきウォーキング推進事業 = 光ヶ丘中学校区 味岡中学校区 ・ボランティア「つつじ」 が愛知県健康づくり 振興事業団の助成により1人ぐらし簡単料理広報掲載の効果判定	・県より事務移譲 1 妊婦及び乳幼児健診事業 2 4か月児・3歳児健診事業 3 乳幼児歯科健診 予防処置事業 4 食生活改善推進員養成・育成事業 5 妊婦及び乳児健診受診券交付 ・母子保健推進協議会設置 ・2歳3か月児歯科健診開始	・2種・3種混合個別接種 ツベルクリン・BCG を4か月児健診にあわせて実施	・H9年4月1日から統廃合により小牧保健所が春日井保健所小牧支所となる ・健康まつりにポルトガル語、スペイン語の通訳、手話通訳を配置 ・保健婦2人増員 事務員1人増員 保健婦2人退職 保健婦12人体制 歯科衛生士1人配置 (職員数24人)	140,819
10年	・がん死亡撲滅モデル地区 = 間々区、岩崎区 ・いきいきウォーキング推進事業 = 篠岡・桃陵中学校区、岩崎中学校区 ・食生活改善推進員養成講座開始 ・小牧市食生活推進協議会設立	・離乳食教室導入(年6回) ・母乳相談の導入(月4回) ・妊婦教室をパパママ教室に変更 ・こども事故予防コーナーの設置	・市外中学校通学者対象の接種を夏休みにあわせ実施 ・ポリオ投与回数変更年2回→3回	・4か月児・1歳6か月児・3歳児健診にポルトガル語、スペイン語の通訳配置 ・保健婦2人増員 ・保健婦1人10月より介護保険課へ保健婦1人退職 看護婦1人退職 事務職1人退職 保健婦14人体制 10月より13人体制 (職員数26人)	141,911
11年	・がん死亡撲滅モデル地区 = 池之内区、小木区 ・いきいきウォーキング推進事業 = 小牧中学校区 小牧西中学校区 ・水中ウォーキング教室温水プール (延233人参加)	・助産婦による妊産婦、新生児、乳児訪問導入(100件) ・育児専用電話「こまねっと」設置 ・育児相談を市内6か所の児童館で開設 ・園児と親を対象に親子歯みがき教室開設 ・小牧市独自の母子手帳の作成・交付(6月)		・保健指導係が母子保健係と成人保健係に分かれる 保健婦1人退職 保健婦1人減員 事務職1人減員 保健婦13人体制 (職員数24人) ・保健センター改築 (1階事務所改築により、消毒室を3階へ、玄関前スロ	143,050

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
11年				ープ及び障害者用トイレを改築)	
12年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝小牧区、米野区 ・人間ドック200人増加 (総数 2,600 人) ・人間ドック受診料 6,000 円→7,050 円 ・人間ドックの名称を「すこやかドック」、基本健診を「さわやか健診」と変更 ・地域リハビリ「こめこめ12」開始(小牧南) ・寝たきり予防講座 (参加401人) ・地区巡回介護講座 (8回193人参加) ・健康ウォーキングマップこまき「いい汗かいていいもの発見」 (1,500 部発行)	・4か月児健診に合わせた母親歯科健診導入 ・助産婦による妊産婦、新生児、乳児訪問 (100件→150件) ・2歳3か月児育児相談(7月) ・育児支援を中心にした乳幼児健診体制を実施 ・日曜パパママ教室開始(年3回)	・個別接種化に伴い、会場数を変更 5→4会場	・2歳3か月児歯科健診 ポルトガル語、スペイン語の通訳配置 (職員数24人)	144,382
13年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝舟津区、久保一色区 ・人間ドック100人増加 (総数 2,700 人)	・母子健康手帳交付時相談を開始 ・助産婦による妊産婦、新生児、乳児訪問 (150件→200件) ・にこにこむし歯予防教室(6回) ・親子で楽しむ料理教室、保健連絡員、母子に対する取組み開始 ・4か月児健診1日目に保育ボランティア「バオバブの木」参加 ・保健連絡員「親子料理研究会」発足	・65歳以上を対象としたインフルエンザ予防接種が始まる	・パソコンによる保健総合システムを導入 (職員数24人)	146,225
14年	・人間ドック150人増加 (総数 2,850 人) ・すこやかドック・さわやか健診に併せて肝炎検診 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝池之内・林・大山野口区、下小針区	・保健連絡員とOBによる赤ちゃんの全戸訪問開始(10月) ・一般公募による保育ボランティア活動開始 ・第2次母子保健計画作成(11月から推進) ・市内モデル校によるフッ化物洗口開始(小牧原小学校・北里小学校)		・保健師1人退職 (職員数23人)	147,055
15年	・人間ドック550人増加 (総数 3,400 人) ・人間ドック受診料 7,050 円→9,000 円 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝北外山県住区、小牧原区	・母子健康手帳を親子健康手帳として交付 ・外国人向け母子健康手帳の交付 ・パパママ教室3回コースの2・3回目を日曜日開催 ・4か月児健診(2日目)に図書館主催に	・小・中学校でのツベルクリン・BCG接種の中止 ・H15年9月風しん予防接種経過措置終了	・保健師3名3月退職 (職員数23人)	148,387

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
15年	・地域リハビリ「健康の集い」(野口第5)「ピーチの会」(桃ヶ丘)開始 ・転ばぬ先の転倒予防教室開始 ・家族の健康を考える食生活講座開始 ・介護者を支える会「ささの会」発足	・よるブックスタート事業が8月より開始			
16年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝入鹿出新田区、南岩崎台区 ・保健師市民健康相談 9時～16時→9時～12時 ・脳いきいき教室開始 ・生活習慣病予防教室「運動はじめて体験教室」 参加者106人 ・健康こまきいきいきプラン作成 ・ウォーキングマップ改訂	・パパママ教室を3回コースから1回に変更 ・日曜パパママ教室を年3回開催 ・運動発達相談開始 ・おひさま教室開始 ・生と性に関するカリキュラム「親・地域版」完成		・休日急病診療所移転 ・診療科目に外科・歯科を増設 ・事務職1人12月退職 ・事務職1人3月退職 (職員数22人)	149,208
17年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝上末・下末・高根区、多気上・多気下区 ・住民健康診断が9日間から2日間へ ・胸部レントゲン撮影が65歳以上の方が対象となる(結核検診) ・人間ドック400人増加 (総数 3,800 人) ・さわやか健診オプションとして胸部 X 線検診開始 ・さわやか健診・すこやかドックのオプションとして前立腺がん検診開始(対象50歳以上) ・体しなやか膝腰スッキリ教室開始 ・健康日本21こまき計画「健康 こまきいきいきプラン」策定 ・保健連絡員活動20周年記念事業 ・05健康・福祉フェスティバル in こまき(健康まつり、福祉展、介護展、歯ピカピック4催事の合同展としてパークアリーナにて開催)	・前期離乳食教室・ごつくん教室開始 ・育児相談月4回から月2回へ ・4か月児健診を2日コース→1日コースへ変更 ・4か月児健診未受診児への対応を個人通知から電話・訪問へ変更	・ツベルクリン反応検査の中止 ・ダイレクトにBCG接種対象が生後6か月未満に変更 ・H17年5月30日より日本脳炎の接種勧奨の見合わせ ・H17年7月29日より日本脳炎第3期廃止 幼児期2種混合が定期外となる ・麻疹予防接種と風しん予防接種の単独ワクチンが3月末日で終了となる為接種勧奨	・栄養士1人3月退職 (職員数24人)	150,569

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
18年	・H18年度より、がん死亡撲滅モデル地区は小学校区で実施＝小牧南小学校 小牧小学校 ・住民健康診断2日間実施 ・乳がん、子宮がん検診受診が2年に1回に変更 ・介護保険・地域支援事業(介護予防事業)担当 ・06健康・福祉フェスティバル in こまき(健康まつり、福祉展、介護展、歯ピカピック4催事合同展) ・傾聴ボランティア「そよかぜ」発足 ・「牧連体操クラブ」発足	・生と性に関するカリキュラム「小学校・中学校版」完成 ・親子健康手帳改正(生と性に関する項目、特に自己肯定感の大切さを意識して加筆) ・マタニティキーホルダー配布(1月) ・第2次母子保健計画中間見直し	・麻しん風しん混合予防接種開始 対象が 第1期 1歳～2歳未満 第2期 小学校入学前の1年間(年長児)に変更 ・児童の集団接種が中止となり個別接種へ変更(2種混合、日本脳炎)	・事務職1人3月退職 (職員数23人)	151,288
19年	・がん死亡撲滅モデル地区＝三ツ淵小学校 一色小学校 ・保健連絡員設置要綱改正(対象が「市内在住の主婦の方」から「20歳以上の市内在住の方」へ変更) ・「血液さらさら」をモデル地区及び6地区で実施 ・おくち元気はつらつ教室開始 ・メンタルヘルスセミナー「山口律子講演会」H20年2月29日(202名)	・自分を大切にすることが出来る「自己肯定感獲得DVD-みんなちがってみんないい」を制作し、H20年1月より、乳幼児健診や希望者に配布、あわせて健康教育を行う ・発達障害をもつ親子を支援する「成長記録」の試作 ・不妊検査及び治療費助成開始 ・妊婦健康診査公費負担 2回→5回 ・8020歯っぴースマイル! 歯みがき教室開始	・結核予防法から感染症予防法に改正される	・栄養士1人増員 看護師1人減員 事務職1人増員 事務職1人3月退職 (職員数24人)	152,445
20年	・がん死亡撲滅モデル地区＝大城小学校 小木小学校 ・ヤング健診の開始 ・地域リハビリ「西コミふれあいの会」開始(西部地区) ・老人保健法から健康増進法に改正される ・さわやか健診・すこやかドック廃止 ・健康診査(生活保護受給者)開始 ・がん個別健診開始 ・肝炎ウイルス検診の対象者を節目検診から40歳の方に変更 ・ウォーキングマップの改訂 ・低栄養予防に関するリーフレット配布開始	・妊婦健診公費負担 5回→14回(H21.1.27以降) ・外国人ボランティアによる赤ちゃん訪問を試験的に開始 ・生と性に関するカリキュラム小学生中学生版を全校で開始 ・安心相談カードを中学2年生全員に配布 ・市立中学2年生全員に「生と性に関するアンケート」を実施 ・市内保育園における年長児を対象としたフッ化物洗口事業を開始	・麻しん風しん混合予防接種 第3期・第4期が5年間の経過措置で開始 対象 第3期：中学1年生に相当する年齢の間の1年間 第4期：高校3年生に相当する年齢の間の1年間	・事務職1人減員 (職員数23人)	153,495

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
21年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝米野小学校 小牧原小学校 ・地域リハビリ「なんなん21」開始(南部地区) ・女性特有のがん検診推進事業開始 対象: 子宮がん (20、25、30、35、40歳) 乳がん (40、45、50、55、60歳) 一定の年齢に達した女性に無料クーポン券と検診手帳配布 ・歯周病予防個別健診開始 (対象:35歳) ・健康日本21こまき計画「健康 こまき いきいきプラン」中間見直し ・健康福祉フェスティバル in こまき4催事→3催事(健康まつり、福祉展、介護展) 会場:パークアリーナから市民会館、公民館に変更	・4か月児健診と1歳6か月児健診にて子育て支援センターと連携 ・市立中学2年生とその保護者に「生と性に関するアンケート」を実施し、思春期の諸問題に対する方策を検討 ・親子健康手帳改正(朝食の大切さに関する内容を充実)	・肺炎球菌ワクチン予防接種費用一部助成開始 対象:75歳以上 ・新型インフルエンザワクチンの接種開始 ・新型インフルエンザワクチン接種に係る費用軽減事業開始	・(職員数23人)	153,581
22年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝村中小学校 味岡小学校 ・向井亜紀がん講演会 H23年1月9日(568名) ・地域自殺対象緊急強化事業「水谷修講演会」 H23年3月19日(783名) ・健康日本21こまき計画「健康 こまきいきいきプランコーナー」として小牧産業フェスタに参加	・市ホームページと携帯サイトに「思春期によくある質問 Q&A」と「小学生と中学生のための相談窓口」を掲載 ・妊婦健診公費負担内容(子宮がん検診、初回血液検査等)の充実 ・妊婦健診受診票に妊婦(成人)歯科健診受診票を挿入	・日本脳炎予防接種3歳になる子に接種勧奨開始 (H22.4.1～) ・インフルエンザ3価ワクチン接種(H22年10月1日～H23年3月31日) ・任意予防接種無料接種開始 (H23.1.1～) 子宮頸がん予防ワクチン ヒブワクチン 小児用肺炎球菌ワクチン	・所長補佐職母子保健係長兼務保健師1人増員(職員数23人)	153,371
23年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝光ヶ丘小学校 北里小学校 ・地域リハビリ終了 こめこめ12(米野小)健康の集い(野口第5) ・働く世代への大腸がん検診推進事業(集団)開始 対象:40、45、50、55、60歳の男女	・妊婦健診公費負担内容(成人T細胞白血ウイルス検査、性器クラミジア検査)を追加 ・子育て支援機関連携会議を開催(ハローファミリーカードの導入) ・妊娠届出時アンケートの充実 ・小学1・2年生を対象に「いのちの学習」を実施(15校) ・市ホームページと携帯	・ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン一時見合わせ (H23年3月5日～H23年3月31日) ・水痘(水ぼうそう)ワクチン予防接種、おたふくかぜワクチン予防接種費用助成開始 (H23.10.1～) ・日本脳炎特例措置開始 (H23.5.20～) (H7.6.1～H19.4.1生まれの者が20	・所長補佐職母子保健係長兼務保健師1人増員(職員数23人)	153,507

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
23年	・健康日本21こまき計画関連事業 ・「いきいきおせっ会」発足 ・いきいき世代個別歯科健診事業開始 対象：40、50、60、70歳	サイトに掲載中の「思春期によくある質問 Q & A」の内容を充実	歳になるまで)		
24年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝本庄小学校 篠岡小学校 ・働く世代への大腸がん検診推進事業（個別）開始 対象：40、45、50、55、60歳の男女 ・ウォーキングマップの改訂 ・知立市健康推進員視察と健康連絡員との交流会 ・第30回健康まつり（フェスティバル）をもって終了 各地区健康展で開催 ・職域対象歯周疾患対策普及啓発事業開始（商工会議所連携事業）	・妊娠期からの育児支援を目的に愛知県統一様式の妊娠届出書を採用 それに伴い、市独自の妊娠届出時アンケートを変更 ・平日パパママ教室（栄養・歯について）、日曜パパママ教室（育児について）で開催された内容を見直し、パパママ教室（育児・栄養・歯について）として、平日や日曜日に開催 ・親子で楽しむ料理を考える会活動終了 ・市立中学2年生に「生と性に関するアンケート」を毎年実施してきたが、今後5年毎の実施とする予定（H29年度実施予定） ・市ホームページと連携サイトに掲載中の「思春期によくある質問 Q & A」に「いじめ」についての内容を追加	・生ポリオワクチンから不活化ポリオワクチンへ（H24.9.1～） ・4種混合ワクチン開始（H24.11.1～） ・尾張北部医療圏広域予防接種開始（H24.6.1～）	・所長補佐職成人係長兼務 保健師1人増員（職員数23人）	153,344
25年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝小牧南地区、桃ヶ丘小学校 ・地域リハビリ終了ピーチの会（桃ヶ丘地域） ・健康日本21こまき計画「健康 こまき いきいきプラン」最終評価 ・「こころの相談窓口」パンフレット改訂 ・乳がん（超音波）検診の開始 対象：30～39歳 ・介護予防事業一次予防事業「筋力アップのためのトレーニングマシン講習会」「サヨナラ膝腰痛教室」「男性のための膝腰痛予防プログラム」開始 ・地域主体の健康まつり（展）の拡充 ・「糖尿病連携手帳」を活用した歯周病予	・低体重児の届出及び未熟児訪問が愛知県から権限移譲 ・健診の事後教室として、親子のかかわりを学ぶ「あそびの教室」を開始 ・小学2年生とその保護者を対象に「いのちの学習」を実施（16校） ・中学3年生に対し「素敵な大人になろう～性感染症の予防～」を実施（7校） ・園児対象う蝕対策普及啓発事業開始（学官連携事業） ・学童期歯科疾患対策モデル事業開始 ・楽育相談をH26年3月より、試験的に実施し、2名参加	・ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、子宮頸がん予防ワクチン定期接種化（H25.4.1～） ・BCG接種対象者生後1年に至るまでに変更（標準：生後5～8か月）（H25.4.1～） ・子宮頸がん予防ワクチンH25.6.14より積極的な勧奨の差し控え ・風しんワクチン予防接種費用助成事業開始（H25.7.1～） 日本脳炎特例措置生年月日の拡大（H7.6.1生→H7.4.2生）	・保健師1人増員 事務職1人減員	153,170

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
25年	防事業開始				
26年	・女性特有のがん検診推進事業(乳・子宮がん検診) ①<乳・子宮がんコールリコール> ・H26年度検診申込者で、H21～H24年度に無料クーポンを配布し、年度内の未使用者に対し本人の申し出により、再度無料クーポンを配布 ②<無料クーポン券の配布年齢を変更> ・乳がん検診：40歳のみ ・子宮がん検診：20歳のみ ・胃がん・大腸がん検診対象年齢を40歳以上から30歳以上に拡大 ・人間ドック事業を開始 - 対象：40歳以上の国民健康保険被保険者、後期高齢者医療被保険者、協会けんぽ被扶養者の方限定(年度内に40歳を迎える方も対象) ・がん検診自己負担額見直し 70歳以上0円→500円/各検診 69歳以下軽減 ・非課税世帯者に対し、「がん検診・人間ドック費用免除券」を保健センター窓口にて発行 ・がん死亡撲滅モデル地区 =小牧地区 - 陶小学校区 ・保健連絡員OB「つつじ会」(一人暮らし高齢者の食生活の研究と工夫)活動終了 ・壮年期対象の機能訓練教室終了 ・第2次健康日本21こまき計画「健康こまきいきいきプラン」策定	・乳児健診受診票の金額変更 (1回目・2回目 5,350円から、1回目 5,180円、2回目 5,990円へ) ・乳幼児健診(集団)の問診票を保護者が外国人の場合、あらかじめ母国語の問診票を郵送 ・にこにこむし歯予防教室をH25年度より、にこにこむし歯予防相談とし、児童館にて実施 ・安心相談カードを教育委員会の相談カードと一体化、市内中学1年生と高校1年生に配布 ・学校保健課題解決事業において小牧市生と性のカリキュラムの公開授業研究に取り組む	・水痘ワクチン定期接種化 (H26.10.1～) ・経過措置(H26年度のみ)生後36月～60月に至るまでの間の児を対象 ・成人用肺炎球菌ワクチン予防接種費用一部助成の対象者変更 75歳以上→70歳以上 ・成人用肺炎球菌ワクチン定期接種化 (H26.10.1～) ・経過措置(H26～30年度) - 当該年度65、70、75、80、85、90、95、100歳の者 ・H26年度は、H25年度末に100歳以上の者 ・愛知県広域予防接種開始 (H26.4.1～) (A類疾病のみ) ・日本脳炎(第2期) - 高校3年生に相当する学年の方で未接種に対し個別通知開始		153,303
27年	・がん死亡撲滅モデル地区 =巾下地区、味岡地区 ・こまき健康マイレージ事業開始 ・保健連絡員活動30周年記念事業	・H27年8月中旬より自己肯定感獲得動画を市のホームページでネット配信 ・DVDは乳幼児健診等で希望者に配布 ・高校にてモデル事業として生と性のカリキ	・日本脳炎(第1期)未接種(H13.4.2生～H19.4.1生)に対し個別通知 ・2種混合(第2期)発送時期変更 12歳誕生日→11歳の誕生日の翌月		153,680

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
27年	・新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業 (乳・子宮がん検診)「乳・子宮がんコールリコール」 - H25年度に無料クーポンを配布した方で年度内に未使用かつ過去5年間(H22～H26年度)に一度も保健センターの検診を受けたことがない方に、無料クーポン券を個別通知	・ユラムを推進 ・「健康寿命をのぼそうアワード」母子保健分野(自治体部門)において優良賞受賞 「母子保健推進協議会から発信する親子の自己肯定感の醸成＝『心豊かにいきいきと生きる力』を持つ子どもの成長につなげていくために＝」 ・H28.3.7より、市ホームページ上に「お子さんの発育や発達に不安を感じたら…」を掲載 - その中で自閉症スペクトラム評価尺度「エムチャット」について、活用したい人が活用できるよう、情報提供(外部リンク)を開始	・尾張北部医療圏の広域接種(B類)H28.3.31で終了 ・インフルエンザワクチン3価→4価に自己負担1,000円→1,200円に変更		
28年	・こまき健康マイレージ事業からこまき健康いきいきポイントへ名称変更 ・ウォーキングアプリ「alko」を10月から配信 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝東部地区、北里地区 ・介護予防事業一次予防事業「男性のための膝腰痛予防プログラム」終了 ・胃がん(内視鏡検査)検診を50歳以上の方に対し2年に1回、和暦の偶数・奇数で区別し、偶数生まれの方から検診を開始 ・新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業 (乳・子宮がんコールリコール) - H26年度に無料クーポンを配布した方で年度内に未使用かつ過去5年間(H23～H27年度)に一度も保健センターの検診を受けたことがない方に、無料クーポン券を個別通知 ・人間ドック受診期間を6月～翌年2月14日まで延長 ・こまきヘルシーメニュー事業をH29年2月から開始	・市内の高校(3校)にて、生と性のカリキュラムを推進 ・赤ちゃん訪問において、外国人家庭へ積極的に訪問実施 ・親子健康手帳の表紙デザインを従来の卵のデザインから市ブランドロゴマークをアレンジしたデザインへ変更 - それに伴い、卵や鳥をたとえにした文章表現を変更 ・第1回母子手帳フォーラム(東京)に参加し、「親子健康手帳における小牧市の思い」を報告 ・愛知県公衆衛生研究会にて、「1歳6か月児健診後の言語発達における伸びを予測する因子－遊びの場を活用した健診にて－」について研究発表	・愛知県の広域予防接種B類疾病開始(H28.4.1～) ・3種混合ワクチン販売中止 最終有効期限H28.7.15で終了 ・B型肝炎定期接種化(H28.10.1～) ・日本脳炎第2期H19.4.2生～の勧奨再開	・初動時における災害時保健活動実践マニュアル(保健班活動マニュアル)の作成	153,526

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
28 年	・ 5 大がん検診の要精検者に再通知を開始				
29 年	・ こまき健康いきいきポイント事業のポイント有効期限を2カ年に変更 ・ 壮年期保健事業出前講座に「正しいラジオ体操教室」を追加 ・ 介護予防事業一次予防事業に「いきいき元気塾」運動編を味岡市民センターでも実施 ・ 「カラダによく効くラジオ体操講習会」を追加 ・ 乳がん(マンモグラフィ)個別検診開始 ・ がん撲滅モデル地区＝小牧南地区、小牧地区	・ 親子健康手帳について、愛知県医師会から愛知県保健医療局長あてに、母子健康手帳の県内統一に関する要望書が提出されたことを受けて、母子保健推進協議会で協議した結果、①B6サイズへの変更、②省令様式の遵守、③予防接種記録等に関するページの振り分けについて、H29年度印刷分の親子健康手帳について変更 ・ 国から、乳児ボツリヌス症の予防対策について、任意記載事項様式「乳幼児期の栄養」についての掲載を前提とした上での再周知の通知を受けて、小牧市独自の内容から任意記載事項様式に変更 ・ 不育治療等助成事業の開始 従来的一般不妊治療等助成事業に加え、不育治療等助成事業を開始 不育症についての検査及び治療を受けられたご夫婦に対し、保険適用外の医療費を助成 ・ 妊婦個別歯科健診の実施 ・ 妊産婦、新生児、乳児訪問の予算を380件から530件へ増加 ・ 小牧高等学校(全日制)において、生と性のカリキュラム＝小学校・中学校版の推進＝について、今後、市内の全高等学校を対象としたカリキュラムの推進を目的として、市内の全高等学校と共に公開授業研究を実施 ・ 第2回母子手帳フォーラムを小牧市で開催(H29年7月1日) (国際母子手帳委員会主催、小牧市後援) ・ 小牧市立中学2年	・ 特別な理由による定期予防接種の再接種費用の助成開始	・ 初動時における災害時保健活動実践マニュアル(保健班活動マニュアル)の改正 (妊産婦、乳幼児のいる家庭の平常時の備えについて啓発を追加) ・ 新型インフルエンザ特定接種について市民病院と協定を結ぶ	153,335

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
29年		生を対象に生と性に関するアンケートを実施			
30年	・青年期出前講座に「女性ホルモンとカラダのトリセツ講座」を追加 ・健康日本21重点施策の取り組みとして、「市民健康講座」を開催 ・小牧市自殺対策計画策定 ・骨粗しょう症検診受診料見直し ・老人福祉センターで実施している老人健康相談を48回から24回へ変更 ・10月～「筋力アップのためのトレーニングマシン講習会」を第1老人福祉センターで実施 ・フレイル予防のための教室「～笑いの泉～わっはっは講座」を老人福祉センターにて実施 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝ 巾下地区、味噌地区 ・乳がん(マンモグラフィ)検診 ①受診者への「乳房の構成」通知開始 ②無料クーポン未受診者に再通知を実施 ・協会けんぽ被扶養者向け集団特定検診と市の胃・大腸がん検診の同日開催	・それぞれに事例検討会や研修会が開催されているため、知恵の輪会を終了 ・H30年4月1日出産以降の産婦及び新生児を対象に、産婦健診2回/人(5,000円/回)、新生児聴覚検査1回/人(5,000円/回)の受診票を交付 ・9月～子育て世代包括支援センターにて、産後ケア事業実施 ・子育て応援アプリ「すくすくこまキッズ」配信開始 ・妊娠期サポートプランを作成・配布 ・12月～子育て世代包括支援センターにて、「利用者支援事業会議」を月1回開催	・成人用肺炎球菌ワクチン助成事業終了に伴い未接種者に対し接種勧奨を個別に通知	・助産師1名増員 ・9月子育て世代包括支援センター開設 (母子保健係長、保健師1名、助産師1名異動) ・所長補佐職、母子保健係長兼務 ・9月、子育て世代包括支援センター開設(ラピオビル内)母子保健型利用者支援事業の実施に伴い、親子健康手帳の交付、妊婦・産婦・乳児個別健診事業、妊婦個別歯科健診事業、低体重児の届出、妊産婦、新生児、乳児訪問、育児相談(市内児童館巡回育児相談、母乳相談含)を保健センター母子保健係より子育て世代包括支援センターへ移管	152,944
令和元年	・いきいき世代個別歯科健診事業の対象者拡充(5歳刻みにし、75歳を追加) ・ウォーキングアプリalkoが8月に秘書政策課から移管され3月まで所管 ・乳がん、子宮がん検診無料クーポンの未受診者の再通知を開始 ・第2次健康こまきいききプランの中間評価及び後期計画の策定 ・ウォーキングマップ改訂 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝ 東部地区、北里	・歯っぴー子育て講座を開始 ・事後検診終了 ・股関節脱臼チェックリストを4か月児健診及び産婦、新生児、乳児訪問で導入 ・子育て世代包括支援センターにて「アンバーサリー事業」を開始 ・1歳サポートプランを作成・配布	・4月1日からロタウイルスワクチン予防接種費用助成事業を開始(市独自) ・成人用肺炎球菌ワクチンの経過措置の延長：R元年～5年度(国の施策) 当該年度65、70、75、80、85、90、95、100歳の者 ・大人の男性風しん対策事業(国の施策)対象者に抗体検査及び接種の無料クーポンを送付	・所長補佐職成人保健係長兼務 ・4月1日から骨髄提供者等助成事業を開始 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、成人保健事業及び母子保健事業の一部事業を中止(3月) ・愛知県災害時保健活動体制整備強化事業により「災害時地域まるわかりシート」を春日井保健所と共に作成 ・統括保健師の開始	152,816

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
令和元年	地区				
2年	・小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例の公布 ・成人歯科健診終了 ・健康ポイント事業（ウォーキングアプリalko含む）小牧市健康づくり推進協議会を健康生きがい推進課へ事務移管する	・妊娠期支援プランを作成・配布 ・多胎妊婦向けサポートプラン作成・配布 ・4か月児、1歳6か月児、3歳児健診でサポートプランを作成・配布 ・歯っぴー子育て講座終了 ・8月～子育て世代包括支援センターにて「オンライン育児相談」を開始	・ロタウイルスワクチン予防接種費用助成事業を終了 ・ロタウイルスワクチン定期接種化（R2.10.1～）	・4月1日健康生きがい推進課が本庁に新設 ・健康生きがい推進課に保健師1名配置 ・新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発令のため一部事業を中止（4月・5月） ・1月18日新型コロナウイルスワクチン接種推進室が本庁舎に新設・新型コロナウイルスワクチン接種推進室に、看護師1名配置 ・所長、所長補佐、予防検診係に兼務発令	152,842
3年	・いきいき世代個別歯科健診事業の対象者の拡充（40歳から75歳の5歳刻みにし、80歳を追加） ・歯周病予防個別健診の対象者の拡充（20歳、25歳、30歳を追加し、20歳から35歳の5歳刻みで実施） ・まちかど運動教室開始 ・住友理工(株)フレイルチェック測定会を東部地区限定で開始 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝小牧南地区、小牧地区	・7月～3歳児健診の視力検査でスポットビジョンスクリーナーを導入 ・多胎妊婦に妊婦健診受診票を5回分追加交付 ・「健康寿命をのばそうアワード」母子保健分野（自治体部門）において優良賞受賞 ・「子育て世代包括支援センターと児童館が連携した切れ目ない支援体制づくり～1st アニバーサリー事業をとおして～」 ・9月～流産・死産の相談窓口開設（子育て世代包括支援センター内）	・BCGの集団接種をR3年度末で終了 ・R元年度送付の大人の男性の風しん対策事業（国の施策）対象者のうち、未受診者等に抗体検査及び接種の無料クーポンを再送付 ・新型コロナウイルスワクチン予防接種の開始：接種の期間、R4年2月28日まで以降、接種期間、対象年齢が順次拡大12歳以上、初回接種、第1期追加接種実施 ・小児（5～11歳）初回接種実施	・子育て世代包括支援センターに保健師1名、保健センターに保健師3名増員	151,920
4年	・働く世代への大腸がん検診推進事業の対象を40歳のみに変更 ・まちかど運動教室を「健康づくり編」「フレイル予防編」に分けて実施開始 ・住友理工(株)フレイルチェック測定会を全域で開始 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝巾下地区、味岡地区 ・口腔がん検診実施（歯科医師会補助事業、2回/年）	・中学2年生を対象にピロリ菌検査事業を開始（市独自事業・市内中学校にて配布・回収） ・こまき妊娠SOSの開設（子育て世代包括支援センター内） ・産後ケア事業のメニュー（アウトリーチ）追加 ・産後ケア事業で償還払いを実施 ・こまき祖父母手帳を作成・配布 ・6月～こまき巡回バス「こまくる」のマタニティフリーパスを配布 ・R5年2月～小牧市すくすく子育て応援事業/小牧市出産・	・HPV（子宮頸がん予防）ワクチンの接種勧奨の再開 ・R4年4月～R7年3月の3年間で、H25年度からR3年度の間、HPVワクチン定期接種の対象であった方へのキャッチアップ接種を開始 ・小牧市子宮頸がんワクチン任意接種補助金の開始（～R6年度末まで） ・小牧市内の医療機関でBCGの個別接種を開始 ・大人の男性の風しん対策事業（国の施策）がR6年度末まで延長対象者に抗体検査及	・7月1日よりがん患者医療用補整具（ウィッグ・乳房補整具等）購入費助成事業を開始：実施要領施行は4月1日～ ・小牧市役所が健康経営優良法人2023に認定 ・新型コロナウイルスワクチン接種推進室に保健師1名配置 ・新型コロナウイルスワクチン接種会場として保健センターで小児接種を実施 ・保健センターに保健師2名、介護保	150,684

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
4 年		- 子育て応援ギフト支給事業（国の出産子育て応援給付金）並びに伴走型相談支援を開始 ・市民活動団体「摂食障害よりみち」との協働事業で摂食障害予防啓発協働事業を実施 ・保健センターでのパママ教室を子育て世代包括支援センターの「あつまれ!!たまごファミリー」に統合し、子育て世代包括支援センターで実施	- び接種の無料クーポンを送付 ・新型コロナウイルスワクチン予防接種の実施：12歳以上、第2期追加接種、R4年秋開始接種の実施 - 小児（5～11歳）追加接種実施 - 乳幼児（6か月～4歳）初回接種実施	陰課に1名増員	
5年	・小牧市健康づくり推進プラン策定（第3次計画） ・がん死亡撲滅モデル地区＝東部地区、北里地区 ・知って得するフレイル予防講座を「知って得する若返り講座」「アクティブシニア応援セミナー」「健康づくり応援隊★認定講座」に変更 ・口腔がん検診拡充（歯科医師会補助事業、実施回数を1回拡充し、年3回実施） ・協会けんぽ被扶養者向け集団特定健診と市の胃・大腸がん検診、子宮・乳がん検診の同日開催	・親子健康手帳について任意様式を18歳まで拡大し内容を改訂 ・幼年期・学童期（中学年）性教育を中央図書館で夏休みに実施 ・5月から伴走型支援として妊娠8か月時アンケートを開始 ・7月から低所得の妊婦に対する初回産科受診料の助成を開始 ・乳幼児身体発育調査を実施	・4種混合ワクチンの定期接種対象月齢が生後3月から2月へ変更 ・HPVワクチン定期接種の対象ワクチンに9価ワクチンが追加 ・50歳以上の小牧市民に対し带状疱疹ワクチンの予防接種費用助成開始 ・新型コロナウイルスワクチン特例臨時接種を年度末で終了	・6月1日より若年がん患者在宅療養助成事業を開始：実施要領施行は4月1日～ ・骨髄提供者等助成事業を拡充 - 市の独自の助成金として20万円の助成拡充 ・歯科衛生士を1名増員 ・精神保健福祉士1名配置 ・子育て世代包括支援センター、保健センター、健康生きがい推進課に保健師を各1名増員 ・乳幼児健診にベトナム語通訳を配置 ・医療救護所に関する医師会との協定内容を変更 ・1月に災害時看護職ボランティア登録制度を制定	150,188
6年	・集団乳がん・子宮がん検診に託児付きの日を設定開始（半日2回） ・いきいき世代個別歯科健診の健診項目を拡充し、オーラルフレイルに係る項目を追加して実施 ・口腔がん検診拡充（歯科医師会補助事業、実施回数を1回拡充し、年4回実施） ・がん対策（がん検診・助成金・がん患者支援センター）チラシを作成 - 保健連絡員や民生委員へ向けてがん教育（情報発信）を実施	・中学生等に向けたがん教育の出前講座を実施 ・2月から親子健康手帳交付のWeb予約を開始 ・市内の幼稚園・保育園にて生と性のカリキュラム（幼年期）を実施 ・すくすく広場3月末に終了 ・助産師による新生児・乳児訪問と統合し、保健連絡員・保健連絡員OBによる赤ちゃん訪問3月末終了 ・「発達障がいをもつ子どもとその親への	・5種混合ワクチン定期接種化（R6.4.1～） ・新型コロナウイルスワクチンがB類の定期接種として開始（R6.10.1～） ・小児用肺炎球菌ワクチンの変更（R6.4.1よりPCV15の使用開始、R6.10.1よりPCV20の使用開始、PCV13が定期予防接種から外れる ・小牧市子宮頸がんワクチン任意接種補助を年度末で終了 ・大人の男性の風しん対策事業をR7.2.28で終了	・新型コロナウイルスワクチン接種推進室が廃止され、統合 3名増員 ・予防検診係長2名配置 ・子育て世代包括支援センター、保健センターに保健師を各2名増員 ・子育て世代包括支援センターに助産師1名増員 ・事務所狭隘解消のため、栄養実習室を事務所へ改修	149,206

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
6年	・第2次小牧市自殺対策計画を策定 ・歯と口腔の健康づくり専門部会設立 ・健康日本21(第三次)にあらずに「女性の健康」が追加されたことにあわせ、女性の健康週間に、30～40代女性を対象とした骨密度測定を実施	・支援のあり方」部会を終了 ・育児専門電話「こまねっと」終了 ・成長記録の様式検討 ・にこにこむし歯予防相談から予防教室へ			
7年	・糖尿病対策専門部会の設立 ・女性の健康づくり支援事業を拡充。若年層を対象とした骨密度測定の実施回数を増加 ・10月のピンクリボン月間にあわせ、市内企業と連携しプレストアウェアネス等について周知啓発 ・小牧市保健連絡員設置要綱を改正	・成長記録新様式変更 ・楽育相談3月末に終了 ・おひさまサロン3月末に終了 ・不妊治療等助成事業(生殖補助医療)開始 ・5歳児健康診査開始 ・中学生ピロリ菌検査事業の回収方法を変更(保健センターや各市民センター等にて回収) ・児童館巡回育児相談を3月末に終了 ・すくすく子育て応援事業の経済的支援が、国の出産・子育て応援交付金に代わり妊婦のための支援給付で対応 ・小学校フッ化物洗口実施校が3校に拡大(小牧原小学校、三ツ淵小学校、米野小学校)	・带状疱疹ワクチン定期接種化 経過措置(R7～11年度)当該年度65、70、75、80、85、90、95、100歳の者※100歳以上の方については、R7年度に限り全員対象 ・H9年度～H20年度生まれの女性で、R4.4.1～R7.3.31までの間にHPVワクチンを1回以上受けた方は、R8.3.31までの間、残りの接種を公費で受けることができる特例的な経過措置を実施 ・MRワクチンの出荷停止に伴う供給不足で接種できない状況があり、R7～8年度に経過措置実施 ・4種混合ワクチン販売中止	・休日急病診療所の外科診療を縮小	148,674

※人口は各年度4月1日現在の人数

第4 衛 生 統 計

第 4 衛 生 統 計

1 人口動態統計年次推移

年次	人口	出生				死亡				自然増減		乳児死亡（再掲）				新生児死亡（再掲）		死産				周産期死亡（再掲）				婚姻		離婚	
		総数	男	女	率	総数	男	女	率	実数	率	総数	男	女	率	総数	率	総数	自然	人工	率	総数	妊産婦立産以後の死産	早期新生児死亡	率	実数	率	実数	率
令和2年	148,831	901	487	414	6.1	1,267	700	567	8.5	△ 366	△ 2.5	2	1	1	2.2	1	1.1	19	12	7	20.7	4	3	1	4.4	627	4.2	228	1.5
令和3年	147,713	898	430	468	6.1	1,415	781	634	9.6	△ 517	△ 3.5	1	1	0	1.1	0	0.0	19	10	9	20.7	1	1	0	1.1	599	4.1	233	1.6
令和4年	147,174	878	467	411	6.0	1,491	836	655	10.1	△ 613	△ 4.2	2	2	0	2.3	2	2.3	15	10	5	16.8	2	2	0	2.3	564	3.8	207	1.4
令和5年	146,352	798	415	383	5.5	1,531	848	683	10.5	△ 733	△ 5.0	0	0	0	0.0	0	0.0	10	4	6	12.4	2	2	0	2.5	553	3.8	207	1.4
令和6年	145,501	793	412	381	5.5	1,516	849	667	10.4	△ 723	△ 5.0	5	3	2	6.3	4	5.0	26	10	16	31.7	4	1	3	5.0	536	3.7	219	1.5
愛知県 (令和6年)	7,160,000	45,514	23,293	22,221	6.4	82,618	43,856	38,762	11.5	△ 37,104	△ 5.2	90	45	45	2.0	49	1.1	933	447	486	20.1	147	111	36	3.2	32,250	4.5	11,109	1.6
全国 (令和6年)	120,295,592	686,173	351,451	334,722	5.7	1,605,378	819,709	785,669	13.3	△ 919,205	△ 7.6	1,266	647	619	1.8	637	0.9	15,323	6,849	8,474	21.8	2,285	1,800	485	3.3	485,092	4.0	185,904	1.5

資料：愛知県保健医療局健康医療部医療計画課「令和6年（2024）愛知県衛生年報」

資料：厚生労働省「令和6年（2024）人口動態統計」

（注1） 数値は確定数である。

（注2） 率算出の計算式

出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率＝ $\frac{\text{出生} \cdot \text{死亡} \cdot \text{自然増減} \cdot \text{婚姻} \cdot \text{離婚数}}{\text{人 口}} \times 1,000$

乳児死亡・新生児死亡率＝ $\frac{\text{乳児死亡} \cdot \text{新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 1,000$

死産率＝ $\frac{\text{死産数}}{\text{出産（出生＋死産）数}} \times 1,000$

周産期死亡率＝ $\frac{\text{周産期死亡数}}{\text{出生数} + \text{妊娠満22週以後の死産数}} \times 1,000$

2 主要死因別死亡数・率年次推移

年次	総数	結核		悪性新生物		高血圧性疾患		心疾患		脳血管疾患		肺炎		肝疾患		腎不全		老衰		不慮の事故		自殺		その他	
		実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
令和2年	1,267	1	0.1	365	28.8	2	0.2	107	8.4	101	8.0	66	5.2	12	0.9	24	1.9	145	11.4	40	3.2	16	1.3	388	30.6
令和3年	1,415	0	0.0	385	27.2	5	0.4	150	10.6	97	6.9	68	4.8	14	1.0	20	1.4	176	12.4	39	2.8	24	1.7	437	30.9
令和4年	1,491	2	0.1	380	25.5	0	0.0	146	9.8	106	7.1	59	4.0	10	0.7	20	1.3	201	13.5	37	2.5	24	1.6	506	33.9
令和5年	1,531	2	0.1	415	27.1	6	0.4	125	8.2	113	7.4	71	4.6	19	1.2	30	2.0	234	15.3	33	2.2	18	1.2	465	30.3
令和6年	1,516	2	0.1	378	24.9	4	0.3	131	8.6	101	6.7	71	4.7	19	1.3	20	1.3	259	17.1	38	2.5	16	1.1	477	31.5
愛知県 (令和6年)	82,618	100	0.1	20,516	24.8	298	0.4	8,588	10.4	4,922	6.0	3,487	4.2	891	1.1	1,329	1.6	12,059	14.6	2,345	2.8	1,121	1.4	26,962	32.6
全国 (令和6年)	1,605,378	1,462	0.1	384,111	23.9	11,799	0.7	226,388	14.1	102,821	6.4	80,176	5.0	18,858	1.2	29,665	1.8	206,887	12.9	45,743	2.8	19,608	1.2	477,860	29.8

資料：令和6年(2024)愛知県衛生年報

資料：令和6年(2024)人口動態統計

（注1） 数値は確定数である。

第5 成人保健事業

第5 成人保健事業

高齢化率の上昇とともに、がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病などの生活習慣病が増加し、認知症や要介護状態となる人々の増加は、深刻な問題になっている。

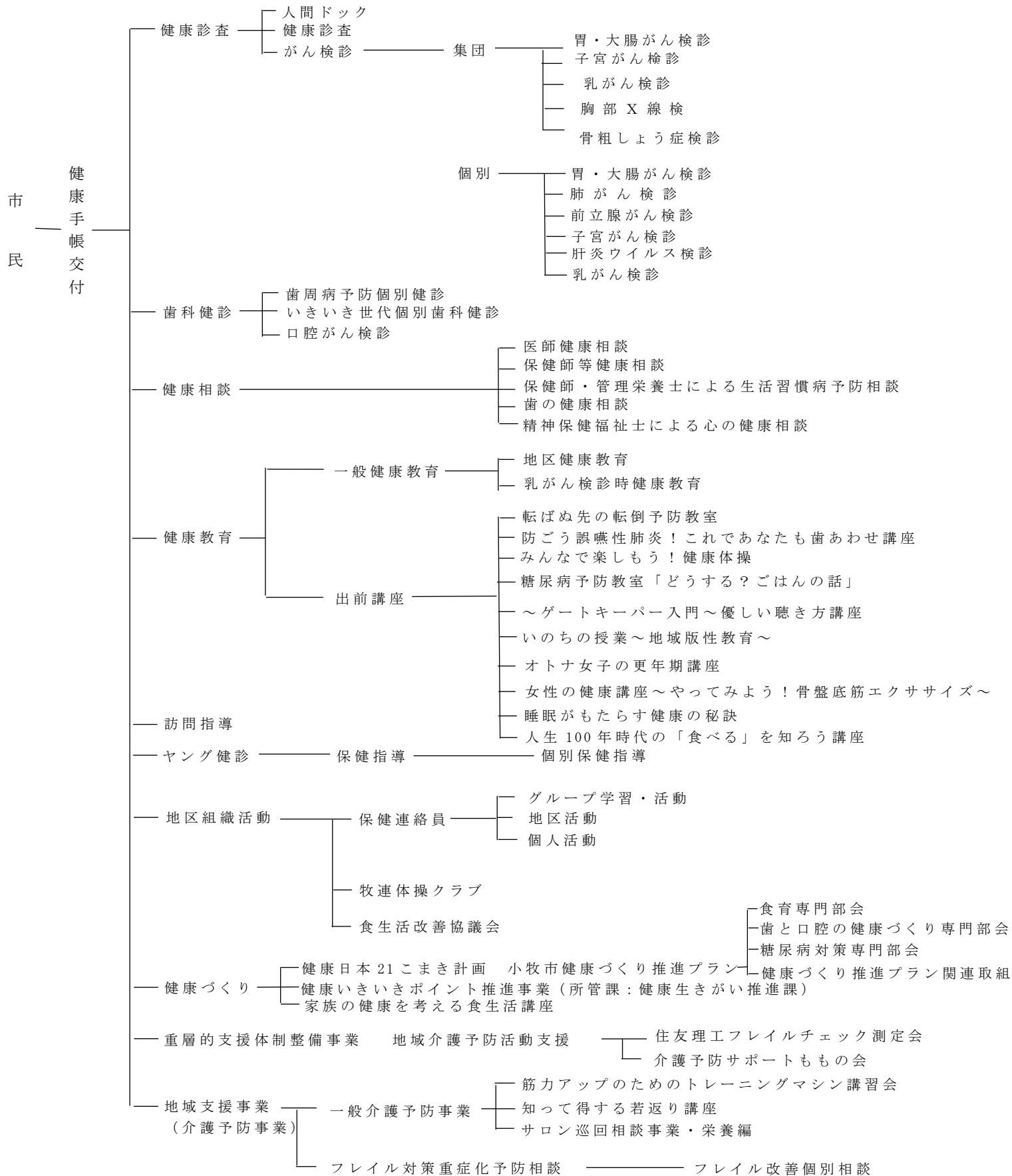
小牧市では生活習慣病予防や介護予防のために各種保健事業を進める中で、必要な方へ効果的に事業の利用促進を図ることを目的として、保健センターと地域の方々とのパイプ役として保健連絡員制度を設けている。

また、すべての市民が健康で長生きできる小牧市を目指して、市民や関係機関等が健康づくりに取り組めるよう、平成26年度に「第2次健康こまきいきいきプラン」を策定。

歯科保健に関しては、歯と口腔の健康が全身の健康の保持増進に重要な役割を果たし、健康寿命の延伸に欠かせないことから、「小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例」を令和3年4月1日に施行し、歯・口腔の健康づくりに関する市民の取組みを支援している。

- (1) 各種がん検診、健康診査、骨粗しょう症検診、各種歯科健診、ヤング健診等により市民の健康上の課題を把握する。
- (2) 把握された健康上の課題を受診者に連絡、指導するとともに生活習慣病予防相談においてコントロールされた日常生活を身につけ、症状の改善を図るよう支援する。
- (3) 健康上の悩みに対応するため、定例健康相談日を設け、医師・保健師・看護師・管理栄養士・歯科衛生士が相談に応じる。
- (4) 一人で外出しづらくなり、閉じこもりがちな人達が集まれる場を地域の人達と共に作り、閉じこもりを防ぎ、介護予防に努める。
- (5) 小牧市健康づくり推進プランにおいて、市民一人ひとりが健康づくりに取り組むことができるように支援するとともに、社会で支える健康づくりに取り組み、計画の推進を図る。
- (6) 仕事や子育てに忙しい市民をターゲットにし、健康づくりへの関心を高め、取り組める環境をつくることで、健康な市民を増やすことを目的に健康いきいきポイント事業を平成27年度から実施している。
- (7) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な取組を関係部署、関係機関と連携し、実施する。

1 成人保健事業一覧



2 健康手帳交付

(1) 目 的

健康診査、各種がん検診、口腔内の状況に関する健康観察などを記録し健康管理に役立てる。

(2) 交付数（再交付及び更新を含む）

保健センター（40 歳以上）15 冊

3 人間ドック（国民健康保険被保険者、後期高齢者医療制度加入者、協会けんぽ被扶養者）

人間ドックは、年度内に 40 歳以上になる上記のいずれかに該当する方を対象にして市内の医療機関で実施。

(1) 検査項目

問診、理学的所見、身体計測、血圧、血液一般、血中脂質、腎・肝機能、代謝系、電解質、がん（胃・大腸・肺）検診
心電図、眼底検査については、医師の判断に基づいて実施する。

(2) 結 果

対象者	受診者数(人)
国民健康保険被保険者 後期高齢者医療制度加入者	5,474
生活保護受給者	36
協会けんぽ被扶養者	153

4 健康診査（生活保護受給者）

健康診査は、40 歳以上の生活保護受給者を対象にして、市内の医療機関で実施。

(1) 検査項目

問診、理学的所見、身体計測、血圧、血中脂質検査、肝機能検査、心電図、眼底検査については、医師の判断に基づいて実施する。

(2) 結 果 対象者 998 人 受診率 13.1%

検査結果	人数(人)	割合(%)
異常なし	3	2.3
要観察	45	34.4
要指導	44	33.6
要医療	13	9.9
治療中	26	19.8
計	131	100.0

5 肝炎ウイルス検診

C型肝炎緊急総合対策の一環として、市内指定医療機関で実施。

(1) 対 象

昭和 60 年 4 月 1 日～昭和 61 年 3 月 31 日生まれの方

(2) 検診結果

C 型 (人)

	男	女	計
感染している可能性が高い	0	0	0
感染していない可能性が高い	2	11	13

B 型 (人)

	男	女	計
陽 性	0	0	0
陰 性	2	11	13

6 がん検診

平成 20 年度から特定健康診査の開始に伴い、個別の胃がん・大腸がん検診を開始。

※精密検査受診結果に関しては令和 8 年 5 月 31 日までに保健センターへ精密検査結果報告書の提出があったものを集計

がん（個別）検診

(人)

検診名	受診者数	初回受診者数	一次検診結果					要精検率	精密検査結果		
			異常なし	要観察	要精密検査	その他の疾患	判定不能		異常なし	がん	その他
胃がん検診 (X線)	4,289	753	3,069	1,036	182	-	2	4.2%	26	4	66
大腸がん検診	9,356	1,473	8,367	-	955	-	34	10.2%	163	19	160
子宮頸がん検診	1,528	850	1,485	-	42	1	0	2.7%	13	1	28
乳がん検診 (マンモグラフィ)	882	431	815	16	51	-	-	5.8%	25	3	21
胸部X線検診	10,832	1,688	7,653	2,764	262	152	1	2.4%	109	3	66
前立腺がん検診	4,188	693	3,693	240	255	-	-	6.1%	33	17	59

検診名	受診者数	初回受診者数	一次検診結果					要精検率	要精検者数		精密検査結果		
			胃がんなし	胃がん疑い	胃がん	胃がん以外の悪性病変	判定不能		生検数	要再検査数	異常なし	胃がんなし	胃がん
胃がん検診 (内視鏡)	1,885	522	1,871	7	5	2	-	8.4	153	6	5	143	7

人間ドックとして実施したがん検診（胃がん・大腸がん・肺がん検診）の実績もそれぞれの検診（個別）に加算して計上

※肺がん検診＝胸部 X 線検診

※－：該当なし

がん（集団）検診

(人)

検診名	回数	受診者数	初回受診者数	一次検診結果				要精検率	要精密検査結果		
				異常なし	要観察	要精密検査	その他の疾患		異常なし	がん	その他
胃がん検診 (X線)	11	284	120	154	121	9	-	3.2%	0	0	8
大腸がん検診	15	575	232	539	-	36	-	6.3%	10	2	12
乳がん検診 (マンモグラフィ)	12	799	341	770	1	28	-	3.5%	9	2	12
乳がん検診 (超音波)	4	115	64	83	29	3	-	2.6%	1	0	2
子宮頸がん検診	6	341	164	338	-	0	3	0.0%	0	0	0
胸部X線検診	4	110	16	86	18	0	6	0.0%	0	0	0
肺がん検診 (喀痰)	-	2	1	2	-	0	-	0.0%	-	-	-

※－：該当なし

※胸部 X 線検診は結核検診を兼ねる

※令和 5 年度より、同日開催でも会場が異なる場合は回数を数えることとする

女性特有のがん検診推進事業（平成 21 年度から実施）

(1) 無料クーポン券を配布（乳がん検診（40 歳）、子宮頸がん検診（20 歳））

特定の年齢に達した女性に対し、無料クーポン券とリーフレット（令和元年度より検診手帳をリーフレットに変更）を配布。女性特有のがん検診を無料で受診できる機会を設け、受診促進と早期発見、正しい健康知識の普及を目的とする。

検診名	対象者数 (人)	検診手段	クーポン利用者数 (人)	利用率	がん (人)
乳がん検診	823	集団	67	21.5%	0
		個別	110		0
子宮頸がん検診	781	集団	1	10.5%	0
		個別	81		0

(2) 乳がん・子宮頸がん検診コールリコール

令和 5 年度に無料クーポン券を配布した方で、当該年度内に未使用かつ過去 5 年間（令和 2 年～令和 6 年度）に一度も市が実施する検診を受診していない方に無料クーポン券を再度発行し無料で検診を受診できるコールリコール事業を実施。

検診名	対象者数 (人)	検診手段	クーポン利用者数 (人)	利用率	がん (人)
乳がん検診	660	集団	12	6.4%	0
		個別	30		0
子宮頸がん検診	757	集団	0	4.5%	0
		個別	34		0

働く世代への大腸がん検診推進事業（40 歳）（令和 4 年度より対象を 40 歳のみへと変更）

特定の年齢に達した男女に対し、がん検診の受診促進を図るとともに、がんの早期発見と正しい健康知識の普及、啓発を進め、市民の健康の保持増進を目的とする。

検診名	対象者数 (人)	検診手段	クーポン利用者数 (人)	利用率	がん (人)
大腸がん検診	1,767	集団	42	6.0%	0
		個別	64		0

がん検診受診者の年齢構成

がん検診（乳がん・子宮がん検診を除く）実施期間：6月1日～2月14日

乳がん・子宮がん検診実施期間：6月1日～3月31日

個別（男）

（人）

検診名	受診者数	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
胃がん検診（X線）	2,215	－	3	82	111	332	1,687
胃がん検診（内視鏡）	915	－	－	－	60	145	710
大腸がん検診	4,413	－	7	136	237	644	3,389
胸部X線検診	4,969	－	2	129	252	701	3,885
前立腺がん検診	4,188	－	－	－	251	608	3,329

個別（女）

（人）

検診名	受診者数	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
胃がん検診（X線）	2,074	－	3	134	156	404	1,377
胃がん検診（内視鏡）	970	－	－	－	95	222	653
大腸がん検診	4,943	－	10	252	389	946	3,346
子宮頸がん検診	1,528	237	200	383	313	214	181
乳がん検診（マンモグラフィ）	882	－	－	332	235	152	163
胸部X線検診	5,863	－	4	217	374	978	4,290

集団（男）

（人）

検診名	受診者数	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
胃がん検診（X線）	65	－	8	10	8	11	28
大腸がん検診	112	－	10	17	18	21	46
胸部X線検診	38	－	－	－	－	4	34
肺がん検診（喀痰）	3	－	－	－	1	1	1

集団（女）

（人）

検診名	受診者数	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
胃がん検診（X線）	219	－	26	47	55	55	36
大腸がん検診	463	－	39	116	120	110	78
子宮頸がん検診	341	4	27	54	94	81	81
乳がん検診（マンモグラフィ）	799	－	－	193	211	199	196
乳がん検診（超音波）	115	－	106	9	－	－	－
胸部X線検診	72	－	－	－	－	17	55
肺がん検診（喀痰）	0	－	－	－	0	0	0

がん要精密検査者の年齢・性別構成
胃がん検診（X線）

(人)

区分		要 精 検 者 数	受 診 者 数	精 検 未 受 診 者 数	精 検 未 把 握 者 数	精 検 受 診 率	精密検査結果								
							異常なし	胃がん （転移性を 含まない）	胃・十二 指腸潰瘍	胃ポリー プ	粘膜下腫瘍	潰瘍癒痕	胃・十二指 腸	胃炎	がんの疑い 又は未確定
40歳未満	男	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40～44歳	男	1	0	0	1	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	1	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	男	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	1	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	男	2	1	0	1	50.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	女	4	1	0	3	25.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	男	1	1	0	0	100.0%	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	女	5	1	0	4	20.0%	1	0	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	男	1	1	0	0	100.0%	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	女	2	1	0	1	50.0%	0	0	0	1	0	0	0	0	0
65～69歳	男	10	5	1	4	50.0%	1	0	0	3	0	1	0	0	0
	女	13	4	3	6	30.8%	1	0	0	1	1	0	0	0	1
70～74歳	男	26	15	2	9	57.7%	2	1	0	2	0	1	8	0	1
	女	22	15	0	7	68.2%	1	0	0	3	2	0	7	0	1
75歳以上	男	58	36	5	17	62.1%	11	3	1	4	0	0	15	0	2
	女	46	23	2	21	50.0%	9	0	0	4	0	1	7	0	2
合計 （40歳未満 を含む）	男	99	59	8	32	59.6%	14	4	1	9	0	2	25	0	4
	女	94	45	5	44	47.9%	12	0	0	9	3	1	14	0	4
	計	193	104	13	76	53.9%	26	4	1	18	3	3	39	0	8
合計 （40歳未満 を除く）	男	99	59	8	32	59.6%	14	4	1	9	0	2	25	0	4
	女	94	45	5	44	47.9%	12	0	0	9	3	1	14	0	4
	計	193	104	13	76	53.9%	26	4	1	18	3	3	39	0	8

がん要精密検査者の年齢・性別構成
胃がん検診（内視鏡）

(人)

区分		要精密検査者数			受診者数 精検	未把握者数 精検	精検受診率	精密検査結果									
		受診者数 生検	要再検査数 うち	計				異常なし	（転移性を 含まない） 胃がん	食道がん	胃・十二指腸潰瘍	胃ポリープ	粘膜下腫瘍	胃・十二指腸潰瘍癒痕	胃炎	がんの疑い 又は未確定	その他 （転移性を 含む）
50～54歳	男	5	0	5	5	0	100.0%	0	0	0	0	1	0	0	3	0	1
	女	2	0	2	2	0	100.0%	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
55～59歳	男	1	1	2	1	1	50.0%	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	女	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	男	3	0	3	3	0	100.0%	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1
	女	1	0	1	1	0	100.0%	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
65～69歳	男	10	1	11	10	1	90.9%	0	0	0	0	3	0	0	7	0	0
	女	9	0	9	9	0	100.0%	0	0	0	1	1	0	0	6	0	1
70～74歳	男	16	1	17	17	0	100.0%	0	0	0	0	1	0	1	9	2	4
	女	15	1	16	15	1	93.8%	0	2	0	1	4	0	0	8	0	0
75歳以上	男	53	2	55	53	2	96.4%	1	4	0	2	5	0	6	26	3	6
	女	38	0	38	38	0	100.0%	3	1	0	0	7	0	4	19	0	4
合計	男	88	5	93	89	4	95.7%	1	4	0	2	10	0	7	48	5	12
	女	65	1	66	65	1	98.5%	3	3	0	2	12	0	4	36	0	5
	計	153	6	159	154	5	96.9%	4	7	0	4	22	0	11	84	5	17

がん要精密検査者の年齢・性別構成
大腸がん検診

(人)

区分		要精密検査者数	精密検査受診者数	未受診者数 精密検査	未把握者数 精密検査	精密検査受診率	精密検査結果							
							異常なし	大腸がん (転移性を 含まない)	ポリープ	憩室	痔疾患	潰瘍性 大腸炎	がんの 疑い未 確定	その他 (転移性 を含む)
40歳未満	男	2	1	0	1	50.0%	0	0	0	1	0	0	0	0
	女	3	2	0	1	66.7%	2	0	0	0	0	0	0	0
40～44歳	男	7	2	1	4	28.6%	1	0	1	0	0	0	0	0
	女	16	8	0	8	50.0%	6	0	0	1	1	0	0	0
45～49歳	男	3	0	0	3	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	15	11	1	3	73.3%	5	0	3	2	0	0	0	1
50～54歳	男	12	2	1	9	16.7%	2	0	0	0	0	0	0	0
	女	20	9	0	11	45.0%	8	0	1	0	0	0	0	0
55～59歳	男	12	10	1	1	83.3%	4	0	6	0	0	0	0	0
	女	13	8	1	4	61.5%	4	1	2	1	0	0	0	0
60～64歳	男	17	13	2	2	76.5%	2	1	7	1	1	0	0	1
	女	30	20	1	9	66.7%	6	1	11	1	1	0	0	0
65～69歳	男	45	23	1	21	51.1%	6	1	15	0	0	0	0	1
	女	45	33	0	12	73.3%	9	0	18	4	0	0	0	2
70～74歳	男	81	49	5	27	60.5%	8	3	28	8	1	0	0	1
	女	77	49	5	23	63.6%	13	3	22	9	1	0	0	1
75歳以上	男	337	187	40	110	55.5%	53	7	91	25	2	0	2	7
	女	256	151	21	84	59.0%	44	4	65	28	1	0	2	7
合計 (40歳未満を含む)	男	516	287	51	178	55.6%	76	12	148	35	4	0	2	10
	女	475	291	29	155	61.3%	97	9	122	46	4	0	2	11
	計	991	578	80	333	58.3%	173	21	270	81	8	0	4	21
合計 (40歳未満を除く)	男	514	286	51	177	55.6%	76	12	148	34	4	0	2	10
	女	472	289	29	154	61.2%	95	9	122	46	4	0	2	11
	計	986	575	80	331	58.3%	171	21	270	80	8	0	4	21

がん要精密検査者の年齢・性別構成
胸部 X 線検診

(人)

区分		要精密検査者数	精密検査受診者数	未受診者数 精密検査	未把握者数 精密検査	精密検査受診率	精密検査結果				
							異常なし	肺がん	良性肺腫瘍	がんの疑い 又は未確定	（転移性肺がんを含む） その他
40～44歳	男	2	1	0	1	50.0%	1	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0
45～49歳	男	1	0	0	1	0.0%	0	0	0	0	0
	女	1	1	0	0	100.0%	1	0	0	0	0
50～54歳	男	2	1	0	1	50.0%	1	0	0	0	0
	女	1	1	0	0	100.0%	1	0	0	0	0
55～59歳	男	4	3	0	1	75.0%	2	0	0	0	1
	女	2	2	0	0	100.0%	1	0	0	0	1
60～64歳	男	7	5	1	1	71.4%	4	0	0	0	1
	女	4	3	0	1	75.0%	3	0	0	0	0
65～69歳	男	8	3	0	5	37.5%	3	0	0	0	0
	女	15	10	1	4	66.7%	6	0	1	0	3
70～74歳	男	23	16	1	6	69.6%	12	0	0	0	4
	女	15	14	0	1	93.3%	10	0	0	0	4
75歳以上	男	90	57	4	29	63.3%	30	2	1	3	21
	女	87	60	2	25	69.0%	34	1	0	3	22
合計	男	137	86	6	45	62.8%	53	2	1	3	27
	女	125	91	3	31	72.8%	56	1	1	3	30
	計	262	177	9	76	67.6%	109	3	2	6	57

がん要精密検査者の年齢・性別構成
子宮頸がん検診

(人)

区分	要精密検査者数	精密検査受診者数	未受診者数 精密検査	未把握者数 精密検査	精密検査受診率	精密検査結果							
						異常なし	LSIL/CIN1	HSIL/CIN2	HSIL/CIN2～3	HSIL/CIN3	AIS	子宮頸がん	(腺のその他 含む)異形成患者
20～24歳	12	8	0	4	66.7%	3	4	0	0	0	0	0	0
25～29歳	3	3	0	0	100.0%	0	0	1	0	1	0	0	1
30～34歳	4	2	0	2	50.0%	2	0	0	0	0	0	0	0
35～39歳	5	4	0	1	80.0%	2	1	0	0	1	0	0	0
40～44歳	5	4	0	1	80.0%	1	2	0	0	0	0	0	0
45～49歳	8	7	0	1	87.5%	3	2	2	0	0	0	0	0
50～54歳	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	2	1	0	1	50.0%	1	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	1	1	0	0	100.0%	1	0	0	0	0	0	0	0
65～69歳	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
70～74歳	1	1	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	1	0
75歳以上	1	0	0	1	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	42	31	0	11	73.8%	13	9	3	0	2	0	1	1

がん要精密検査者の年齢・性別構成
乳がん検診（マンモグラフィ）

(人)

区分	要精密検査者数	精密検査受診者数	未受診者数 精密検査	未把握者数 精密検査	精密検査受診率	精密検査結果		
						異常なし	含（転乳がん ま不移性を ない）	含（転移性 む）その他
40～44歳	19	17	0	2	89.5%	8	0	9
45～49歳	11	11	0	0	100.0%	4	1	6
50～54歳	12	11	0	1	91.7%	6	0	5
55～59歳	15	13	0	2	86.7%	6	2	5
60～64歳	1	1	0	0	100.0%	1	0	0
65～69歳	6	6	0	0	100.0%	3	1	2
70～74歳	5	5	0	0	100.0%	2	0	3
75歳以上	10	8	0	2	80.0%	4	1	3
合計	79	72	0	7	91.1%	34	5	33

乳がん検診（超音波）

(人)

区分	要精検者数	精検受診者数	未受診者数 精検	未把握者数 精検	精検受診率	精密検査結果		
						異常なし	含（転乳がん ま不移性を ない）	（転移性を 含む）その他
30～34歳	0	0	0	0	0.0%	0	0	0
35～39歳	3	3	0	0	100.0%	1	0	2
40～44歳	0	0	0	0	0.0%	0	0	0
合計	3	3	0	0	100.0%	1	0	2

がん要精密検査者の年齢・性別構成
前立腺がん検診

(人)

区分	要精検者数	精検受診者数	未受診者数 精検	未把握者数 精検	精検受診率	精密検査結果		
						異常なし	前立腺がん	その他
50～54歳	3	2	0	1	66.7%	1	0	1
55～59歳	4	1	2	1	25.0%	0	0	1
60～64歳	8	5	0	3	62.5%	1	0	4
65～69歳	31	11	2	18	35.5%	6	2	3
70～74歳	37	13	1	23	35.1%	3	3	7
75歳以上	172	59	13	100	34.3%	22	12	25
合計	255	91	18	146	35.7%	33	17	41

7 骨粗しょう症検診

寝たきりの原因となる骨粗しょう症予防のため、30歳以上の市民を対象に実施。

※平成28年度から踵部（かかと）の超音波診断

受診者の年齢・性別構成

(男)

(人)

年齢	異常認めず	要指導	要精検	合計
30～39歳	5	0	0	5
40～49歳	0	0	0	0
50～59歳	4	0	0	4
60～69歳	2	1	2	5
70歳以上	22	15	6	43
合計	33	16	8	57

(女)

(人)

年齢	異常認めず	要指導	要精検	合計
30～39歳	7	5	1	13
40～49歳	9	6	0	15
50～59歳	23	16	8	47
60～69歳	9	28	16	53
70歳以上	14	41	35	90
合計	62	96	60	218

8 健康教育事業

(1) 乳がん検診時健康教育

ア 目的

乳がんについての理解を深め、ブレスト・アウェアネスを習得してもらい、乳がんの早期発見、早期治療に結びつける。

イ 対象

乳がん検診受診者

ウ スタッフ

保健師、看護師

エ 実施内容・参加者数

回数	内容	参加者数
233回	乳がんについて ブレスト・アウェアネスについて セルフチェックについて	800人

(2) 地区健康教育

ア スタッフ
保健師等

イ 保健師対応健康教育 実施内容・参加者数

(人)

地区・グループ名	内 容	参加者数
小針区・3あい	身長・体重・握力・血圧・骨密度測定結果・市の健康ツールについての講話	30
小松寺区・3あい	血圧・長座体前屈・体組成形・握力の測定 熱中症に関する講座	30
久保一色本田区・3あい	脳トレと小牧山体操の実施	24
久保山団地区	フレイル予防（筋トレ、栄養、口腔）	25
小牧原北区・3あい	体組成・血圧計・握力・長坐位・フレイル 予防に関する講話&脳トレ	20
間々原区	ボディチェッカー・体組成・物忘れチェック・講話、長座、握力、血圧、脳トレ	17
小牧原中区サロン	体組成・血圧計・握力・長坐位・開眼片足 立ち測定フレイル予防体操	18
村中区・サロン	フレイルについての講話、体操	26
入鹿区	測定（握力、長座体前屈、体組成、血圧 計）、健康相談、体操	42
小牧原駅東区	脳トレ、お口	20
二重堀区	フレイル講座 握力、口腔機能、AGE s 測定	30
村中区・3あい	正しい歩き方、体操	30
東新町区	骨密度、体組成、血圧	26
野口区・3あいサロン合同	フレイルについて（運動・食事）	29
シルバースポーツ	体組成計の結果説明、フレイル、熱中症	35
みどり台集いの会	熱中症について	26
6圏域こまき山体操代表 者等交流会	貸出物品の説明、熱中症について	15
東部ゆうゆう学級	熱中症について	27
あいち清光会家族会	フレイル予防に関する講話	60
三ツ渚学区健康フェア	フレイルについて、体操、熱中症対策	103
ふれあいのつどい	握力測定、フレイルについて	110
下小針ふれあいいいき きサロン	体組成、握力、血圧、長座体前屈、フレ イルチェック	25
小牧ヶ丘あすなろ会	体組成、握力、長座体前屈測定 フレイルについて	8
岩崎東区 中サロン	フレイル体操、脳トレ	40
大山区3あい事業	体組成、握力、長座体前屈 フレイルについて	21
竹林地区ふれあいきい きサロン	転倒予防について	18
計		855

ウ 管理栄養士対応健康教育 実施内容・参加者数（成人関係）
（人）

団体名	内 容	参加者数
保健連絡員Cグループ学習会	食事をおいしくバランスよく	19
保健連絡員Dグループ学習会	栄養成分表示の見方と、年齢と共に注目したい栄養成分	23
寿学園	おいしく食べて元気に長生き！～シニア期の食事を考える～	439
計		481

(3) 職域健康教育

ア スタッフ
保健師等

イ 実施内容・参加者数（人）

団体名	内 容	参加者数
上下水道部	心の健康について	12
DNP 田村プラスチック(株)	健診結果の見方について	68

(4) 出前講座（国保協力事業）

ア 目 的

日頃集まる場（地区老人クラブ等）を活用し、おくちの健康やフレイル予防などについての知識の普及や日常生活の中で実施できる体操などの習慣化を促すことで、要介護状態になることを予防する。

また、生活習慣病や体力低下を予防し、市民が健康づくりをするためのきっかけをつくることや疾患に対する理解を促し、予防行動につながることで、自己肯定感を育み、市民が心身ともに健やかに過ごすための基盤づくりを図る。

イ 対 象

小牧市内の老人クラブの会員、保健連絡員活動、地域3あい事業の出前講座等、地区からの団体申し込み

ウ コース名・内容・講師

コース名	内 容	講 師
防ごう誤嚥性肺炎！ これであなとも歯あ わせ講座	【講話】誤嚥性肺炎を予防するポイントなど 【実技】顔の筋トレ、健口体操など	歯科衛生士
転ばぬ先の転倒予防 教室	【講話】「日常生活における転倒予防とは」など 【実技】転びにくい体づくりのための体操など	運動指導士 及び看護師
みんなで楽しもう！ 健康体操	【講話】ラジオ体操の正しい方法について 【実技】実技指導、ストレッチ、みんなの体操指導など	体操指導員

～ゲートキーパー入門～優しい聴き方講座	【講話】ゲートキーパーについて 【実技】ペアワーク、ストレッチなど	精神保健福祉士
人生100年時代の「食べる」を知ろう講座	【講話】「健康寿命をのばすためにフレイルを予防しよう」 【実技】BMIチェック、11種のバランスチェック、今晚のメニューを考えよう	管理栄養士
オトナ女子の更年期講座	【講話】更年期について 【実技】体操など	NPO法人 ちえぶら
女性の健康講座～やってみよう！骨盤底筋エクササイズ～	【実技】出産や加齢による腹圧性の尿漏れ予防に効果的なエクササイズ	NPO法人 ちえぶら
睡眠がもたらす健康の秘訣	【講話】睡眠について	保健師
糖尿病予防教室「どうする？ごはんの話」	【講話】糖尿病予防について	管理栄養士
いのちの授業～地域版性教育～	【講話】人の出生、プライベートゾーンについて	助産師 保健師

エ 実施回数・参加人数

(人)

コース名	令和7年度		令和6年度		令和5年度	
	回数	人数 (延べ)	回数	人数 (延べ)	回数	人数 (延べ)
転ばぬ先の転倒予防教室	5	131	7	199	5	94
みんなで楽しもう！健康体操	9	205	5	115	6	117
立っても座ってもOK！本気のラジオ体操講座						
めざせ！健康長寿～今からできること～					5	115
人生100年時代の「食べる」を知ろう講座	8	235	6	144	4	68
育てよう！自己肯定感			0	0		
防ごう誤嚥性肺炎！これであなとも歯あわせ講座	9	189	13	354	12	321
オトナ女子の更年期講座	3	62	4	60	5	113
女性の健康講座～骨盤底筋エクササイズ～	4	72	7	129	7	143
～ゲートキーパー入門～優しい聴き方講座	1	29	3	91		
～ゲートキーパー入門編～優しい伝え方講座						
睡眠がもたらす健康の秘訣	6	167				
糖尿病予防教室「どうする？ごはんの話」	4	71				
いのちの授業～地域版性教育～	0	0				
計	49	1,161	45	1,092	44	971

(5) 自分・家族の健康を考える食生活講座（ヘルスマイト養成講座）

ア 目 的

自分の食生活を見直し、生涯にわたり健康でいきいきとした生活を送ることができるよう、望ましい食生活について、講義と実習の両面から学ぶ。

そして、市民自らが健康づくりに取り組み、その学びを家族、地域、職場の人々へ広げ、社会全体の健康づくりに寄与できることを目指す。

イ 対 象

市民 2 人

ウ スタッフ

管理栄養士、保健師、歯科衛生士、精神保健福祉士、ヘルスマイト

エ 実施内容・参加者数

(人)			
回	実施日	内 容	参加者数
1	10月15日（水）	オリエンテーション 講話「小牧の健康状況と取り組みについて」 講師：保健師 講話「地区組織活動について」 「自分や家族の食生活を見直そう」 講師：管理栄養士	1
2	11月19日（水）	調理実習「バランスのとれた食事を作ろう」 講話「食事バランスガイドの使い方」 「生活習慣病と予防法を知ろう！」 講師：管理栄養士	2
3	12月17日（水）	運動実習「体を動かして、フレイルを予防しよう」 講師：保健師 講話「オーラルフレイルとお口の健康」 講師：歯科衛生士 講話「こころの健康とフレイル」 講師：精神保健福祉士 講話「フレイル予防の食事と低栄養」 講師：管理栄養士	2
4	1月21日（水）	調理実習「フレイル予防の食事」 講話「減塩について」 講師：管理栄養士	2
5	2月18日（水）	調理実習「食塩を控えた食事」 塩分測定「おうちの味を確認しよう」 講話「食中毒予防について」 講師：管理栄養士	2
6	3月18日（水）	講話「食品成分表を使って、栄養価を計算しよう！」 グループワーク「私たちにできる健康づくり」 講師：管理栄養士 講話「ヘルスマイトについて」 講師：ヘルスマイト 修了証書授与	2
計			11

オ 食生活改善協議会員（ヘルスメイト）活動開始者数 2 人
（講座修了者は食生活改善協議会員として活動できる）

9 健康相談事業

(1) 医師健康相談 人（回）

実 施 日 時	場 所	実 施 内 容	参加者数（開催回数）		
			令和7年	令和6年	令和5年
毎週月曜日 9 時～11 時 45 分 13 時～14 時 15 分 毎週水曜日 9 時～11 時 15 分	保健センター	・病気に関する相談 ・健診結果の説明 ・治療等に関する相談 等	17 (89)	15 (88)	12 (95)

ア 目 的

気になる症状があるが、病院へは行きづらい方や病気についての相談を希望する方に、自分の健康に関して医師の相談を実施し、自らの健康を振り返り、健康に関する意識を高める機会とする。

イ 対 象

健康に関して、医師へ何らかの相談を希望する市民

(2) 保健師等健康相談

人（回）

実 施 日 時	場 所	実 施 内 容	参加者数（開催回数）		
			令和7年	令和6年	令和5年
毎月第4月曜日 9時～11時45分	保健センター	・健康に不安のある方の運動・食 事等の日常生活相談 ・血圧測定・尿検査の実施	39 (24)	89 (24)	153 (46)
毎月第3火曜日 9時30分～11時15分	味岡市民センター		－ －	－ －	8 (11)
毎月第3水曜日 9時30分～11時15分	東部市民センター		－ －	－ －	4 (11)
計			39 (24)	89 (24)	165 (68)

ア 目 的

病気の有無にかかわらず、自らの健康を保持・増進し、生活習慣病を予防しながら健康を守っていくことができるよう、健康意識を高める。

イ 対 象

市民

(3) 保健師・管理栄養士による生活習慣病予防相談

人(回)

実施日時	場 所	実 施 内 容	参加者数(開催回数)		
			令和7年	令和6年	令和5年
毎週月曜日 9時30分～12時 13時30分～16時	保健センター	生活習慣、食事記録をもとにした 具体的な生活習慣の相談	53 (40)	44 (38)	64 (43)

ア 目 的

- ・自分の健康に対する知識や各種生活習慣病に対する知識を深める。
- ・何らかの生活習慣病を持ちながらも、元気で、自己実現のできる生活ができるよう健康を生活の重要な条件として認識する。
- ・自分の健康状態を振り返り、積極的に日常生活や食生活、運動習慣を見直し、今後の生活につなげていける機会とする。

イ 対 象

- ・健康状態を振り返り、積極的に日常生活や食生活・運動習慣を見直したい方及びその家族
- ・骨粗しょう症検診で、要指導・要精検となった方及びその家族
- ・病気などにより日常生活の改善が必要な方及びその家族

ウ 相談来所きっかけ

(人)

医師からの紹介	健診結果より	一般相談より	教室等での紹介	広報・チラシ	継続の方	その他
4	38	0	2	0	2	7

エ 相談内容内訳(相談内容は再掲、重複あり)

(件)

相談内容	糖尿病	高血圧	脂質異常症	肥満	骨粗しょう症	食事一般	その他
相談件数	34	16	21	5	8	2	1

(4) 精神保健福祉士による心の健康相談

令和7年度

精神保健福祉 面接・電話・訪問 相談実施集計結果について

	年齢区分						合計	性別					相談内容（重複可）																			
	妊産婦	乳児期	小・中・高・大	19歳―39歳	40歳―64歳以上	65歳以上		相談件数	男				女	本人	家族	その他	マタニティブルー―	子育て（メンタル）	社会復帰	こころの健康づくり	薬物	いじめ	ひきこもり・不登校	自殺関連	犯罪被害	精神疾患						
																										うつ	統合失調症	発達障害	アルコール	摂食障害	受診について	その他
面接相談	0	0	0	17	9	0	26	18	8	22	3	1	0	0	0	24	0	0	0	1	0	1	12	0	1	0	7	3				
電話相談	0	0	6	16	69	82	173	41	132	155	16	2	0	0	5	169	0	1	4	0	0	3	111	0	8	1	21	5				
訪問	0	0	0	1	1	1	3	2	1	3	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1				
各項目の合計	0	0	6	34	79	83	202	61	141	180	19	3	0	0	6	196	0	1	4	1	0	4	124	0	10	1	29	9				

10 訪問指導

(1) 健康増進法に基づく訪問指導

ア 目的

生活習慣病、要介護状態になることの予防に関する指導、または療養上保健指導が必要であると認められる者及びその家族に対し、保健師等が訪問して健康に関する問題を総合的に把握し、必要な指導を行うことで、心身機能の低下を予防し、健康の保持・増進を図る。

イ 対象

40歳以上 65歳未満の者及びその家族

(ア) 対象者の把握方法

(人)

内 容	令和7年度	令和6年度	令和5年度
県関係機関より	1	1	0
医療関係より	0	0	0
福祉関係より	1	2	0
本人・介護者・家族からの依頼	2	1	0
保健連絡員・ボランティアから紹介	0	0	0
保健センター事業より	1	0	0
前年度から継続	0	0	0
糖尿病重症化予防事業より（再掲）	0	0	0
その他	2	1	0
計	7	5	0

(イ) 被指導人員

(人)

内 容	実人員	延人員
生活習慣病要指導者等	0	0
閉じこもり予防	0	0
認知症の者	0	0
精神的支援	5	10
その他	2	3
計	7	13

ウ 実施結果

(ア) 保健師・訪問指導員による訪問

・ 訪問延件数 13 件

・ 訪問指導内容 (件)

内 容	件 数
血圧測定	0
疾患	0
服薬	0
食生活	0
口腔衛生	0
咀嚼嚥下	0
A D L	0
I A D L	0
運動	0
環境整備	0
生きがいづくり	0
地域活動参加勧奨	0
基本チェックリスト実施	0
他機関紹介	0
家族間調整	0
就労	0
日常生活	4
各種制度	1
受療・医療	7
苦情	0
傾聴	10
自殺	0
その他	0

※重複記載あり

(1) 管理栄養士による訪問

・訪問件数 2件

(2) その他訪問指導

ア 目的

保健センターへの来所が困難な場合や家庭での状況を確認した上で
の指導が必要な場合、あるいは家庭での指導が適切な場合に訪問して
相談、指導を行う。

イ 対象

前述の健康増進法等の訪問対象以外の者及びその家族

(ア) 対象者の把握方法

(人)

内 容	令和7年度	令和6年度	令和5年度
県関係機関より	0	1	0
医療関係より	0	0	0
行政関係より	0	1	2
本人・介護者・家族からの依頼	1	5	2
保健連絡員・ボランティアから紹介	0	1	0
保健センター事業より	1	0	0
前年度から継続	1	2	2
糖尿病重症化予防事業より（再掲）	0	0	1
一体的実施事業	75		
その他	0	0	0
計	78	10	7

(イ) 被指導人員

(人)

内 容		実人員			延人員	
		40歳未満 （再掲）	65歳以上 （再掲）		40歳未満 （再掲）	65歳以上 （再掲）
生活習慣病要指導者等	0	0	0	0	0	0
閉じこもり予防	0	0	0	0	0	0
介護予防事業	0	0	0	0	0	0
認知症の者	0	0	0	0	0	0
精神的支援	1	1	0	3	3	0
一体的実施事業	75	0	75	160	0	160
その他	2	0	2	3	0	3
計	78	1	77	166	3	163

ウ 実施結果

(ア) 保健師・訪問指導員による訪問

・訪問延件数 166 件

・訪問指導内容 (件)

内 容	件 数
血圧測定	0
疾患	0
服薬	0
食生活	0
口腔衛生	0
咀嚼嚥下	0
A D L	0
I A D L	0
運動	0
環境整備	0
生きがいづくり	0
地域活動参加勧奨	0
基本チェックリスト実施	0
他機関紹介	4
家族間調整	0
就労	0
日常生活	42
各種制度	20
受療・医療	30
苦情	0
傾聴	39
自殺	0
その他	132

※重複記載あり

(イ) 管理栄養士による訪問

・訪問件数 1 件

1 1 ヤング健診

(1) 目 的

健康と毎日の生活習慣を振り返るきっかけとして、若い頃からの健診及び指導を受ける機会を提供して生活習慣病の予防につなげる。

生活習慣から起因する疾病の予防に向け、生活習慣病と密接に関係する内臓脂肪に着目した血液検査を取り入れた健診を実施し、ハイリスク者に対し自覚症状の有無にかかわらず検査値に基づく動機付けをすることで、糖尿病等の生活習慣病の発症予防や重症化防止につなげる。

(2) 対 象

- ・小牧市に住民登録のある 35 歳から 39 歳の方で、事業所等で健診を受ける機会のない方
- ・昨年度ヤング健診受診者のうち動機付け・積極的支援に該当した方(15 人)

(3) 実施日時

日にち：令和 7 年 7 月 16 日(水)、8 月 18 日(月)、9 月 19 日(金)、
10 月 22 日(水)

時 間：午前 9 時 30 分～12 時

(4) 会 場

保健センター

(5) 実施内容

身体計測（身長・体重・腹囲測定）、血圧測定、尿検査、血液検査（脂質検査・肝機能検査・血糖検査・アルブミン・尿酸・貧血検査・クレアチニン）、心電図検査、眼底検査、医師診察、生活習慣及び歯科に関する保健指導

(6) スタッフ

医師、保健師、看護師、歯科衛生士、事務員

(7) 受診結果概要

ア 受診者数 (人)

	令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度
35 歳	21	26	36
36 歳～39 歳	156	146	149
総受診者数	177	172	185

イ 健診結果による階層化

	令和 7 年度	令和 6 年度	令和 5 年度
情報提供レベル	156 人 (88.1%)	150 人 (87.2%)	164 人 (88.5%)
動機付け支援レベル	10 人 (5.6%)	15 人 (8.7%)	11 人 (5.9%)
積極的支援レベル	11 人 (6.2%)	6 人 (3.5%)	10 人 (5.4%)
判定不能		1 人 (0.6%)	

ウ 階層化による各レベルにおける内訳

(ア) 情報提供レベル 156 人 (男性 34 人 女性 122 人)

身体計測内訳 (人)

男性	腹囲 85cm 以上 + BMI25 以上のチェック	8
	腹囲 85cm 以上のみのチェック	6
	BMI25 以上のみのチェック	0
女性	腹囲 90cm 以上 + BMI25 以上のチェック	8
	腹囲 90cm 以上のみのチェック	1
	BMI25 以上のみのチェック	7

検査項目基準値外内訳

(人)

検査項目		男性	女性
収縮期血圧	高値	2	1
拡張期血圧	高値	3	1
空腹時血糖値	高値	3	3
HbA1c	高値	1	31
中性脂肪	高値	3	5
HDL コレステロール	低値	0	1

(イ) 動機付け支援レベル 10 人 (男性 2 人 女性 8 人)

身体計測内訳 (人)

男性	腹囲 85cm 以上 + BMI25 以上のチェック	2
	腹囲 85cm 以上のみのチェック	0
	BMI25 以上のみのチェック	0
女性	腹囲 90cm 以上 + BMI25 以上のチェック	4
	腹囲 90cm 以上のみのチェック	0
	BMI25 以上のみのチェック	4

検査項目基準値外内訳

(人)

検査項目		男性	女性
収縮期血圧	高値	1	6
拡張期血圧	高値	0	4
空腹時血糖値	高値	0	1
HbA1c	高値	1	2
中性脂肪	高値	1	4
HDL コレステロール	低値	1	0

(ウ) 積極的支援レベル 11 人 (男性 7 人 女性 4 人)

身体計測内訳

(人)

男性	腹囲 85cm 以上 + BMI25 以上のチェック	6
	腹囲 85cm 以上のみのチェック	1
	BMI25 以上のみのチェック	0
女性	腹囲 90cm 以上 + BMI25 以上のチェック	4
	腹囲 90cm 以上のみのチェック	0
	BMI25 以上のみのチェック	0

検査項目基準値外内訳

(人)

検査項目		男性	女性
収縮期血圧	高値	5	3
拡張期血圧	高値	5	2
空腹時血糖値	高値	1	0
HbA1c	高値	4	3
中性脂肪	高値	5	1
HDL コレステロール	低値	3	1

(8) ヤング健診後の保健指導状況

ア 個別面接状況

ヤング健診受診者 177 人中 135 人 (76.3%) と面接

うち 栄養相談 23 人

結果説明	男性	女性
情報提供レベル	34 人 (100%)	87 人 (71.3%)
動機付け支援レベル	2 人 (100%)	6 人 (75%)
積極的支援レベル	4 人 (57.1%)	2 人 (50%)
総利用者	40 人 (93.0) %	95 人 (70.9%)

イ 動機付け、積極的支援対象者への処遇

動機付け支援対象者 10 人(男性 2 人 女性 8 人) (人)

処 遇	男 性	女 性
特定保健指導に準じた保健指導を実施	1	5
専門職による保健指導を実施	1	2
資料送付	0	1

※複数選択あり

積極的支援対象者 11 人(男性 7 人 女性 4 人) (人)

処 遇	男 性	女 性
特定保健指導に準じた保健指導を実施	0	2
専門職による保健指導を実施	5	1
資料送付	2	1

※複数選択あり

1 2 重層的支援体制整備事業

子ども、高齢、障害、生活困窮など、分野ごとの枠組みを超え、複雑化・複合化した個々の課題を地域全体で包括的に支援することを目的として実施する事業です。

この事業のうち、個々の深刻な課題に対し、地域の中での自然なつながりや緩やかな見守りを仕組化し、より身近なセーフティネット機能を推進することを目的とし、事業を実施しています。

※令和6年度までは介護保険事業特別会計において実施しておりましたが、令和7年度から一般会計に移管して実施しました。

(1) 地域介護予防活動支援事業

ア 住友理工フレイルチェック測定会

(ア) 目 的

住友理工株式会社が開発したフレイルチェックシステムを用いて、フレイルチェックを行う機会を設けることで、自身の今の健康状態を知るきっかけとする。

(イ) 対 象

60歳以上の市民

(ウ) 内 容

身体計測、問診、体組成測定、握力、5m歩行速度、3m TUG、クロステスト（足圧測定）、フィードバック

(エ) 参加者数／回数

117人／8回

イ 介護予防サポートももの会

(ア) 目 的

地域の高齢者が、住み慣れた地域において自主的に介護予防に取り組むことができるよう、集いの場を運営する地域団体に対し、介護予防に必要な知識を提供し、地域住民の介護予防の推進及び居場所づくりを支援する。

(イ) スタッフ

保健師、看護師

(ウ) 方 法

ボランティアが主となり、介護予防の場を運営していけるよう支援していく。

保健センターからスタッフが出向き、実際の場面を通してどのように対処したらよいか伝えていく。

また、カンファレンスを通して実際の場면을振り返る機会を設ける。

(エ) 内 容

- ・介護予防に関するボランティア等の人材を育成するための指導
- ・介護予防に資する地域活動組織の育成・支援

(オ) グループ活動

a グループ活動の目的

高齢や病気のため体に不自由が生じ、気持ちがなかなか外に向かず、1人では外出しづらく、閉じこもりがちの方が集まれる場を作

り、介護予防に向けた取り組みを行う。

b グループの詳細

介護予防サポート ももの会

(a) 対象地区 篠岡地域

(b) 日 時 毎月第1・第3金曜日（月2回）

午前9時30分～午後3時30分

全24回 ボランティア会議1回

(c) 内 容 体操、ゲーム、レクリエーション、読み聞かせ、創作活動等

(d) メンバー及び利用者 (人)

	実人数	延べ人数
ボランティア (保健連絡員、保健連絡員OB)	19	260
利用者	7	140

1 3 地域支援事業 一般介護予防事業

(1) 介護予防普及啓発事業

ア 知って得する若返り講座

(ア) 目 的

心身の機能が低下した状態の「フレイル」に陥らないよう、その予防に向けた正しい知識を普及啓発し、市民一人ひとりがフレイル予防の大切さを認識し、自分ごととして行動に移すことができるよう促し、元気で生き生きとした潤いのある暮らしを続けていくことができるよう支援する。

【ねらい】

参加された人がフレイル予防に関する意識を向上させ、講座で得られた知識を個人や地域での活動の中で生かすことができる。

(イ) 対 象

概ね 60 歳以上で市内在住の方

(ウ) スタッフ

歯科衛生士、体操指導員

(エ) 内 容

- ・お口の機能アップと頭の体操を楽しみながら行う
- ・運動器機能向上のための筋トレ、ストレッチなど簡単な体操を音楽に合わせて行う

(オ) 会 場

ラピオ

サンビレッジ（社会福祉法人 あいち清光会）

田県の郷

勤労センター

北里市民センター

(カ) 実施状況 参加者数（延べ）

(人)

会場	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	総計
ラピオ	12	13	16	11	10	6	12	10	6	9	8	11	124	202
サンビレッジ	-	-	-	4	6	4	-	-	-	-	-	-	14	
田県の郷	-	6	5	8	-	-	-	-	-	-	-	-	19	
勤労センター	-	-	-	-	-	-	2	7	2	-	-	-	11	
北里市民センター	-	-	-	-	-	-	-	-	12	14	8	-	34	

イ 筋力アップのためのトレーニングマシン講習会

(ア) 目 的

高齢者にとって身近な老人福祉センターにおいて、高齢者自身が安全に効果的にトレーニングマシンを利用し、筋力特に下肢筋力の強化に向けて取り組むことができるよう支援する。

(イ) 対 象

小牧市在住の 60 歳以上の方

(ウ) スタッフ

健康運動指導士

(エ) 内 容

- ・筋力アップトレーニングやストレッチの必要性を伝える
- ・トレーニングマシンの正しく、安全かつ効果的な使用方法を指導する

(オ) 会 場

第一老人福祉センター 野口の郷 機能回復訓練室
第二老人福祉センター 小針の郷 機能回復訓練室
第三老人福祉センター 田島の郷 機能回復訓練室

(カ) 実施状況 実施回数・参加者数（延べ）

野口の郷 6 回
小針の郷 6 回
田島の郷 6 回

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	総計
野口の郷	-	18	-	15	-	10	-	25	-	10	-	6	84	220
小針の郷	-	7	-	7	-	8	-	8	-	10	-	7	47	
田島の郷	-	9	-	25	-	15	-	10	-	12	-	18	89	

ウ おいしく食べて元気に長生き！サロン巡回低栄養予防教室

(ア) 目 的

サロン参加者の状況に合わせて、低栄養予防についてのミニ講話や相談に応じることにより、低栄養予防に関する正しい知識の普及啓発を行う。

(イ) 対 象

市内のふれあいいきいきサロンの参加者

(ウ) 講 師

管理栄養士

(エ) 内 容

低栄養を予防する食事についての講話と簡易栄養相談を「おいしく食べて元気に長生き！サロン巡回低栄養予防教室」として実施

(オ) 実施場所

各サロン実施の会館等

(カ) 実施状況

10 か所 210 人に実施

エ まちかど運動教室

(ア) 目 的

フレイル予防に関する知識の普及啓発を行い、自らの健康状態を把握したうえで、自分にあった健康づくりを継続できるよう支援する。

(イ) 対 象

介護予防把握事業や令和 6 年度健康診査の結果から、フレイルリスクがある方

(ウ) スタッフ

健康運動指導士、管理栄養士ほか

(エ) 内 容

自身の体の状態を把握するため、健康測定（握力、開眼片足立ち、5 m 歩行、Timed Up & Go）を行うとともに、運動や栄養、口腔、認知におけるフレイル予防に関する講話を実施する。

(オ) 参加者数

	回数	参加者数 (実人数)	参加者数 (延人数)
南部	6	8	40
中部	6	15	65
西部	6	21	86
味岡	6	16	67
篠岡	6	26	117
北里	6	6	22
計	36	92	397

(2) フレイルハイリスク者重症化予防相談

ア フレイル改善個別相談

(ア) 目 的

加齢とともに心身の機能が低下し、要介護に陥る危険性の高い状態にある高齢者が口腔、栄養、運動の3分野において、各専門職による個々の状態に応じた支援を受けることで、フレイル改善に向けた取り組みを行い、住み慣れた地域でいつまでもいきいきとした生活を送ることができる。

- ① 個々の状態に応じた個別相談を通して、フレイル改善のための取り組み方法を知り、行動変容ができる。
- ② 通いの場に出向き、楽しみを見つけることで、他者とのつながりを持つことができる。

(イ) 対 象

保健師等の専門職が個別相談の必要があると判断した、概ね 60 歳以上の方

分野	判断基準
口腔	・固いものが食べにくくなった ・水や汁物でむせることが多くなった ・家族や友人から聞き取りにくいと言われるようになった
運動	・ひざや腰に痛みを感じる（医師より運動の許可がある） ・うでや肩に痛みを感じる（医師より運動の許可がある） ・ペットボトルのキャップが開けにくくなった ・10 分以上継続して歩くことができない ・以前と比べて歩く速度が遅くなってきた ・週に 2 回以上体を動かしていない
栄養	・体重減少（6 か月間で 2～3 kg 以上） ・BMI が 18.5 未満 ・健康診査等でアルブミン値が 3.5g/dl 未満 ・食事での困りごとがある

(ウ) 対象者の把握経路

- ・後期高齢者健康診査を実施している医療機関より把握
- ・高齢者の集う場（サロン等）において実施されるフレイルチェックや地域住民（保健連絡員等）を通して保健師等が把握
- ・介護予防実態把握事業において地域包括支援センターより把握
- ・国民健康保険加入者のうちレセプトより把握

(エ) スタッフ

【口腔・運動分野】

歯科衛生士 1 名、理学療法士 1 名、看護師もしくは保健師 1 名

【栄養分野】

管理栄養士 1 名

(オ) 方 法

【口腔・運動分野】

各老人福祉センターで開催日を設け、理学療法士、歯科衛生士による個別相談を行い、看護師がフィードバックを行う。

【栄養分野】

対象者との日程調整後、地区の会館や自宅等に管理栄養士が出向き、個別相談を行う。

(カ) 内 容

【3 分野共通】

- ・心身機能の状態について本人の気づきを促し、フレイル改善の取り組みのきっかけになるよう、その状態の改善に向けた相談、情報提供を行う
→本人の気づきを促すため、相談時にミニ測定を実施し、個々の状態に応じた個別相談を実施する
- ・自宅でも取り組めるように資料を配布する
- ・通いの場の紹介

(キ) 実施状況
分野別の実施人数

(人)

月	口腔・運動分野			栄養分野
	野口の郷	小針の郷	田島の郷	
4	－	－	－	0
5	－	－	－	1
6	1	－	2	0
7	－	2	4	0
8	4	2	－	0
9	3	－	3	0
10	1	4	3	0
11	3	4	4	0
12	3	3	1	0
1	1	2	3	0
2	－	2	4	0
3	2	2	－	0
合計	18	21	24	1
分野別合計	63			

1 4 小牧市健康づくり推進プランの推進

(1) 基本理念

「みんなが主役 支え合いの輪でつながるまち こまき」

(2) 最終目標

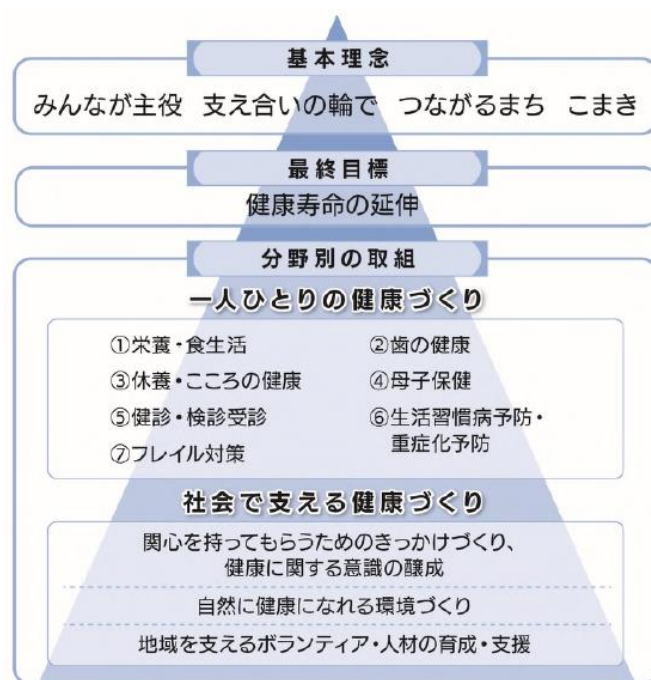
「健康寿命の延伸」

(3) 基本方針

1. 一人ひとりの健康づくり
2. 健診・検診受診率の向上
3. 生活習慣病予防・重症化予防
4. フレイル対策
5. 社会で支える健康づくり

(4) 推進の体系

最終目標である「健康寿命の延伸」の実現のため、分野別計画として、「一人ひとりの健康づくり」として7分野（①栄養・食生活、②歯の健康、③休養・こころの健康、④母子保健、⑤健診・検診受診、⑥生活習慣病予防・重症化予防、⑦フレイル対策）と「一人ひとりの健康づくり」を支える仕組みづくりとして、社会で支える健康づくりを設定し、それぞれが連携しながら施策を推進する。



(5) 小牧市健康づくり推進審議会および専門部会の設置

本プランの策定および推進に関する事項その他市民の健康づくりのための施策に関する事項について調査審議するため、小牧市健康づくり推進審議会を置く。また、その審議事項のうち、健康づくりに関する専門的事項について必要な調査及び研究を行うため、審議会に小牧市健康づくり推進審議会専門部会を置く。

名称・所掌事務	令和7年度
食育専門部会 (食育に関する事項について必要な調査及び研究を行うこと。)	食育関連事業の検討および運用状況の振り返りを行い、課題の共有と今後の方向性を整理。 食育イベント「みんなで結ぶ栄養の日 in こまき」開催。
歯と口腔の健康づくり専門部会 (歯と口腔の健康づくりに関する課題の解決及び市民のあるべき姿の実現に向け、必要な調査及び研究を行うこと。)	各ライフステージにおける、小牧市の歯科保健に関する課題について共有。 乳幼児期・学齢期の歯科保健活動について検討。 節目歯科健診の受診率向上に向けた取り組みについて検討。
糖尿病対策専門部会 (糖尿病対策に関する課題の解決及び市民のあるべき姿の実現に向け、必要な調査及び研究を行うこと。)	市の現状および、各委員の立場における課題について共有。 糖尿病についての正しい知識の周知啓発方法について検討。 世界糖尿病デーイベントの実施。

(6) 各分野の令和7年度の主な取り組み事業

【一人ひとりの健康づくり】

① 栄養・食生活

○食育月間普及啓発

- ・食育月間に合わせ、小牧市中央図書館と連携し、食育に関する図書コーナー設置

○食育イベント開催

- ・ヘルスラボ・こまきを会場に、管理栄養士・栄養士の活動をより広く発信するとともに、食育の推進や栄養課題の解決につなげることを目的とし、「みんなで結ぶ栄養の日 in こまき」を開催。

② 歯の健康

○いきいき世代個別歯科健診オーラルフレイルに関する健診項目を追加

- ・口腔機能低下の予防とともに市民のオーラルフレイルに関する知識の普及を図るため、いきいき世代個別歯科健診の全ての年代で、オーラルフレイルに関する健診の項目を追加した

③ 休養・こころの健康

○自殺予防啓発

- ・自殺予防週間にあわせて、図書館と連携し、イベントスペースにて、「心の健康づくり」に関する講座、パネルの展示、自殺対策に関連した書籍を集めた図書コーナー設置するなど、普及啓発を積極的に行った
- ・市民と職員向けにゲートキーパー養成講座を実施した
- 依存症に関する啓発
 - ・ギャンブル、薬物、アルコール等の依存症に関する啓発活動として、啓発グッズの配布、ポスターの掲示、市のホームページにて行った
- ④ 母子保健
 - 幼年期性教育
 - ・年長児とその保護者を対象とした性教育を実施（保育園・幼稚園での出前講座）した
- ⑤ 健診・検診受診
 - がん検診を受診しやすい環境づくり
 - ・集団がん検診での託児を実施した
 - ・ホームページの個別検診実施医療機関一覧表の電話番号をリンクとし、番号の入力を自動化した
 - ピンクリボン月間における周知啓発
 - ・10月のピンクリボン月間において、更衣室等を設置するジムやプールなどの施設にて、ブレスト・アウェアネスを中心とする女性の健康に関する情報提供を行い、意識の醸成を図った。
- ⑥ 生活習慣病予防・重症化予防
 - 健康相談事業
 - ・生活習慣病予防相談等で、生活習慣に改善が必要な方に対して尿検査等を実施し、専門職が相談に応じた。また、保険医療課と連携し、健診結果にて高血糖状態がみられる方に生活習慣病予防相談の案内を送付した。
 - 糖尿病対策事業
 - ・糖尿病デー（World Diabetes Day）にあわせて、ケーブルテレビや各 SNS での発信やブルーライトアップを行うことで周知啓発を実施した
 - 受動喫煙対策や COPD に関する取り組み
 - ・世界禁煙デーや COPD デーに合わせて、ポスターや各 SNS で周知啓発を実施した
 - 糖尿病対策事業
 - ・世界糖尿病デーに合わせ、市内公共施設および協力事業団体にて、ブルーライトアップをはじめとした周知啓発を行った。
 - ・保健センターの来所者にシールを貼付してもらい、ブルーサークルを作成した。
 - 青・壮年期女性を対象とした骨密度測定および周知啓発
 - ・20代～40代が来所されるようなイベント等に出向き、骨密度測定及び保健指導を実施した。
 - ・高校生を対象とした生と性のカリキュラムにおいて、骨量リーフレットを配布し、骨量に関する正しい知識や生活習慣等、高校生に適した内容について周知した。

⑦ フレイル対策

○高齢者の保健事業と介護予防等の一体的実施

- ・ハイリスクアプローチの一つである重症化予防（糖尿病治療中断者）への支援を開始した

【社会で支える健康づくり】

○地域で支える健康づくりの推進

- ・ヘルスラボ・こまきにおいて、地域で健康づくりやフレイル予防を普及啓発するうえで必要となる知識や技能を習得するための講座を開催し、地域での活動の場を提供した

○健康経営支援

- ・市内で健康経営に取り組む優良事業所（5社）を顕彰した
- ・健康経営優良法人認定申請を行う市内事業所に対し、申請費用の一部を補助した
- ・企業の健康経営担当者等を対象に、小牧市健康経営優良事業所表彰式とあわせて交流会を開催した

1 5 こまき健康いきいきポイント事業

(1) 目 的

自ら目標を定め、自分にあった健康づくりを楽しみながら継続できるよう、ポイント事業を実施して活動のきっかけや励みを提供する。これにより、健康づくりに取り組む世代・人口を拡大し、市民の健康増進を図る。

(2) 事業概要

愛知県との協働事業

「こまき健康いきいきポイント」パンフレットに掲載されている健康づくり（下記（4）の大人版こまき健康いきいきポイント事業内容参照）を実施して、ポイントを1,000ポイント以上貯めるとあいち健康づくり応援カード（まいか）と地域限定商品券（1,000円分）と交換できる。

「まいか」を提示すると、愛知県内の健康づくり応援カード協力店から優待を受けることができる。

(3) パンフレット配布、まいか・地域限定商品券交換申込場所

市役所、保健センター、ヘルスラボ・こまき、各市民センター、各コミュニティセンター、パークアリーナ小牧、まなび創造館

※ホームページよりパンフレットダウンロード可能。電子申請フォームより交換申込可能。

(4) 大人版こまき健康いきいきポイント事業

ア 内 容

- ・ 毎日チャレンジ
毎日の自主目標の取り組みでポイントを貯める
- ・ 健診・検診チャレンジ
がん検診や人間ドック、特定健診などを受けてポイントを貯める
- ・ 参加チャレンジ
健康に関する講座やイベントに参加してポイントを貯める

イ 対 象

中学生以上の市民及び市内在勤・在学者

ウ 周知方法

広報、ホームページ、チラシ、ポスター、各事業でパンフレット配布

エ 実 績

- ・ あいち健康づくり応援カード「まいか」及び地域限定商品券交換者数 862人
- ・ 市内あいち健康づくり応援協力店舗数 39店舗（R8.3.31時点）

(5) 子ども版こまき健康いきいきポイント事業

ア 目 的

生活習慣が不規則になりがちな夏休みに、本事業を通し、親子で楽しみながら健康づくりに取り組むことで、健やかな身体と心を育み、理想的な生活習慣の基盤をつくる。

イ 対 象

市内小学生

ウ 実 績

- ・あいち健康づくり応援カード「まいか」交換及び記念品贈呈者数
293 人

16 ウォーキングアプリ「alko」

(1) 目的

誰もが元気でいきいきと暮らすことができる市民総活躍社会を目指し、健康づくりに時間を取りづらい働く世代の方でも「歩く」ことを通し、手軽に健康づくりができる習慣を身に付けることができるよう、市独自のウォーキングアプリを開発・配信し、健康寿命の延伸に寄与する。

(2) 事業概要

- ・1日6,000歩で獲得できるポイントを貯め、抽選で地域限定商品券に交換できる
- ・獲得ポイントに応じて期間限定でalkoカードを獲得でき、これを市内のalko応援協力店等で提示することで優待を受けることができる
- ・期間限定のチャレンジを達成すると、抽選で記念品を獲得することができる

(3) 対象

- ・スマートフォン用アプリ「alko」ダウンロード者
- ・地域限定商品券：18歳以上の市内在住、在勤、在学者

(4) チャレンジ結果

チャレンジ名	種別	開催日	参加者数 (人)	達成者数 (人)	達成率 (%)
旧道を歩こうチャレンジ	個人	5/1～5/7	3,234	2,139	66
文化・芸術力向上チャレンジ	個人	6/2～6/8	3,510	2,416	69
健康と献血意識向上チャレンジ	個人	7/1～7/10	3,171	2,072	65
下水道の日チャレンジ	個人	9/10～9/16	3,060	1,730	57
身体と地域の健康力向上チャレンジ	個人	10/11～10/20	3,472	2,108	61
市制70周年VRウォーキング大会	VRW	10/27～11/30	4,933	3,018	61
シルバー歩け歩けチャレンジ	個人	11/7～11/14	2,525	2,040	71
気軽にリサイクルチャレンジ	個人	2/9～2/15	3,130	2,055	66
心とからだの健康づくりチャレンジ	個人	3/9～3/15	3,740	2,496	67

(5) alko カード獲得者数

配信回数 (期間)	第 1 回 (8 月 1 日～31 日)	第 2 回 (11 月 1 日～30 日)	第 3 回 (1 月 1 日～31 日)
獲得者数	5,371 人	5,221 人	4,899 人

(6) 地域限定商品券交換者数

対象者		交換者数
市民	1,000P	1,327 人
	2,000P	2,609 人
市外在住市内在勤者	1,000P	109 人